

真鍮銅製棒及板	無	税	一割 (同)	同
真鍮曲釘	同	税	一割 (同)	同
真鍮及銅製品	三	割	三割五分 (同)	同
莫大小製品	無	税	五分 (同)	同
綿製衣類及織物	同	税	五分 (同)	同
綿 織物	一	割	五分 (同)	同
絹 織物	一	割	一割五分 (同)	同
絹 製靴下	無	税	一割 (同)	同
絹 製靴下	二割	五分	一割 (同)	同
毛織及絹製靴下	同	税	三割 (同)	同
毛織及絹製靴下	二割	五分	二割 (同)	同
硫 黃	一割	五分	一割 (同)	同

是ニ由リテ之ヲ觀レハ英本国ニ對スル税率ト一般各國ニ對スル税率トハ其間甚シキ徑庭アリ此ノ如キハ素ヨリ英國ノ植民地ニ對スル保護政策ノ然ランマル結果ニンテ亦已ムヲ得サル所ナリト雖モ日英通商条約ノ効果カ濠洲ニ及ハサルハ吾人ノ頗ル遺憾トスル所ナリ況ンヤ日英間ハ同盟ノ關係上日ニ月ニ親善ヲ加フルニ於テオヤ殊ニ今次ノ戰乱ニ際シ

テ防備ノ乏シキ濠洲ヲシテ幸ニ敵艦隊ノ侵略ヲ免レシメタルハ全ク我武力ノ後援ニ俟ツ所多カリシハ濠洲人ノ夙ニ首肯スル所ナリ吾人ハ同洲人ノ對日感情ノ親善ナル今日ノ好機ヲ逸セス更ニ一層広ク我産業進歩ノ現状ヲ紹介シ地理的関係上本邦品ヲ輸入スルノ有利ナルヲ会得セシメ此際日濠通商条約ヲ締結シテ特惠税率ニ均霑スルノ途ヲ開クハ啻ニ我国ノ為メタルノミナラス諸外國ヨリノ輸入欠乏セル濠洲ニ於テモ利便タラスンハアラス冀クハ對濠貿易ノ前途ヲ深慮セラレ速ニ閔税ノ協定ニ努メラレンコトヲ

右本所ノ決議ヲ以テ意見開申候也

大正五年二月二十二日

大阪商業會議所

会頭 土居通夫(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

## 事項五 日伊通商航海条約改締及暫定取極締結一件

一九七 一月八日

在伊国伊集院大使ヨリ  
本野外務大臣宛

日伊通商航海条約改正準備用書類送付ノ件

機密第一号

大正六年一月八日

在伊

特命全権大使 伊集院彦吉(印)

註 送付書類ヲ省略ス

日伊通商条約廢棄方伊国政府ヨリ通告ノ件ニ關シ客年十一

一、伊国ト諸外國トノ間ニ締結セル通商航海条約集(自一九一一年九月一日至一九一四年七月三十日)

I Trattati di commercio, dogana e navigazione fra l'Italia e gli altri Stati.

一、伊国貿易年表、一九一四年第一卷ノ二及第二卷  
Movimento commerciale del Regno d'Italia nell'anno 1914. (Parte Seconda (volume II))

ノ件

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

日伊通商条約廢棄方伊国政府ヨリ通告ノ件ニ關シ客年十一

月二十八日附第四三号貴電ノ趣了承就而同号末段御申越ニ係ル条約改正準備用書類左記ノ通米国經由郵便ニテ發送致候條御査取相成度候也

ノ件

一、伊国関税表説明書

Testo unico del Repertorio per l'applicazione della Tariffa dei dazi doganali del Regno d'Italia-1914

五 日伊通商航海条約改締及暫定取極締結一件 一九七 一九八

別 電 同日伊集院大使発本野外務大臣宛第一〇号  
伊藤書記官伊国ノ新関税調査當局

者ノ意向探聞ノ件

一六一

## 第九号

日伊条約改正ノ件ハ客年十二月五日附機密第一八号ヲ以テ報告シタル通ノ事情ニ付伊国ハ或ハ本年早々ニハ改正開談ノ運ニ至ラサルカトモ思考シ居タリ然ルニ同年十二月二十八日附貴電第四三号ニ接シタルカ右ハ伊国カ開談ノ留保ヲナシ置クタメノ通告ナルヤニモ存セラレタルヲ以テ昨一月十一日伊国外務大臣ニ面会シ意嚮ヲ探リタルニ本年中ニハ各国トノ条約ノ期限到来シ又巴里経済會議ノ決議及戦局ノタメ種々改正ヲ要スル事態ヲ生シタルヲ以テ此際独リ日本ノミナラス各国ニ通告ヲナシタル次第ナリ而シテ改正ノ基礎タルヘキ伊国新関税政策及税率等ハ予テ設ケアル委員会ニ於テ調査中ニテ右結了ノ上諸般準備整ヒ次第成ルヘク速ニ各国トノ改正談判ヲ開始シタシトノコトニ付本使ノ諒解スル所ニテハ右伊国新関税政策及税率等ハ伊國議會ノ協賛ヲ經ルノ必要アルヘク果シテ然ラハ改正談判ハ議會協賛後トナルヘシト尋ネタルニ然リトノコトニ付更ニ右ハ何時頃其ノ運トナル見込ナルヤラ尋ネタルニ昨今時局ノ折ナレハ只今其ノ見込ハ付キ兼ヌルトノコトナリ尚伊藤書記官ヲシテ新関税調査ノ直接當局者ニ付探聞セシメタル結果別電第

二、各國トノ改正談判ヲ開始シタシトノコトニ付本使ノ諒解スル所ニテハ右伊国新関税政策及税率等ハ伊國議會ノ協賛ヲ經ルノ必要アルヘク果シテ然ラハ改正談判ハ議會協賛後トナルヘシト尋ネタルニ然リトノコトニ付更ニ右ハ何時頃其ノ運トナル見込ナルヤラ尋ネタルニ昨今時局ノ折ナレハ只今其ノ見込ハ付キ兼ヌルトノコトナリ尚伊藤書記官ヲシテ新關稅調查ノ直接當局者ニ付探聞セシメタル結果別電第

## (別 電)

一月十二日在伊国伊集院大使発本野外務大臣宛(電報)

伊藤書記官伊國ノ新関税調査當局者ノ意向探聞ノ件

第一〇号  
伊藤書記官ヲシテ関税改正ニ関シ伊國當局ニ就キ(脱)タル要領左ノ通

右御参考迄ニ申進ス

一〇号ノ通ナルカ此等ヲ参照スルトキハ伊國ハ直ニ開談ハ出来サルモノニテ早クトモ六月以後ナルヘシ右ノ次第ナルヲ以テ貴電第四三号ノ参考書中伊國関税表説明書及伊國ト諸外国トノ間ニ締結セル通商條約集ハ本月九日及十日米國經由ニテ發送セルカ其ノ他入手次第發送スヘク但シ調査中ノ新関税政策及税率案ハ到底当分入手ノ見込ナシ

本件談判開始ノ方法ニ付何レ御詮議ノ次第アルヘキモ卑見ニテハ今度ハ伊國カ改正ヲ希望シタルモノナルヲ以テ帝国政府ハ伊國ヲシテ改正案ヲ提出セシメ之ヲ(不明)研究本邦ノ準備整ヒタル上開談シ又関税ノコトハ専門ノ智識ヲ要スル次第ナルヲ以テ今度ハ本邦ニ於テ談判アル方便宜ナルヤニ思考ス

## 第一、商工省商業局長ノ談

一、伊国政府ハ成ルベク早ク條約ヲ改正シタキ意思ナリ特ニ中欧帝国及瑞西トノ條約ハ同系統ニシテ伊國通商條約中groupe prédominantヲ為セルニヨリ瑞西トノ現行條約繼續センカ独塊ハ戰後直チニ之ヲ利用スルノ虞アルヲ以テ瑞西トノ條約改正ハ特別ニ重要且急ヲ要ス其他同盟國トノ條約改正ハ容易ナルベシ

一、條約改正ノ基礎ハ新関稅率表議會ノ協賛ヲ經テ成立セルトキハ之ニ拠ルヘク若シ成立セザルトキハ如何ニスベキヤ問題ナリ

新關稅率表ハ目下調査中ニシテ政府ハ何時之ヲ議會ニ提出スルヤ不明ナルモ六月迄ニハ議會ヲ通過セシメタキ希望ナリ

一、同盟國側ニテ戰爭終了迄現行條約ノ繼續ヲ主張セバ伊國政府ハ或ハ同意スルナラン

一、關稅率表中改正ヲ要スル多數及重モナルモノハindustrie métallurgique, mécanique, chimiqueニ関スル

モノニシテ是等ニ關スル協定ヲ要スルモノノ多少ニヨリ條約改正ノ難易ヲ生スベシ

五 日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件 一九八

## 第二条約改正委員長ノ談

一、新國定關稅率表ノ制定關稅政策根本主義ノ調査ヲ委任セラレシ王國委員會ノ事業中新關稅率表ノ作製ハ目下殆ト終了シ本月中ニ全委員會ヲ開催シ關稅政策ノ根本主義ヲ決定スベク其上四月迄ニハ之ヲ政府ニ提出スル等新關稅率表ノ作製並關稅政策上ノ主義ニ付委員會ニ於テハ單ニ伊國ノ利益ヲ主眼トセルヲ以テ政府ハ之ニ raisons politiquesヲ考量シ必要ノ改正ヲ加ヘ議會ニ提出スルコトトナルベシ

一、若シ議會ガ新關稅率表ニ協賛ヲ与ヘザルトキハ條約ノ基礎ナキヲ以テ改正談判ノ開始ハ不可能ナリ

第三、大藏省條約關稅課長ノ談

一、條約改正ハ新關稅率表制定ノ後ナラデハ之ヲ為ス能ハス改正談判ノ開始ハ成ルベク速ニ為シタキモ今直チニトハ行カザルベシ併シ本年中ニハ為ス筈ナリ

一、改正談判ハ羅馬ニ於テ為スヤ否ヤハ未タ何等決定スルトコロナシ

一、今回條約破棄ヲ通告セル國ハ伊國ト稅率協定ヲ有スル國ニシテ即チ露國、塞爾比亞、羅馬尼、瑞西、日本、西

班牙、伯刺西爾ナリ英國トハ協定税率無ケレバ同手続ニ出テザリキ仏國及希臘トハ協定税率アルモ其破棄ニ関シ期限ノ定メナケレバ同時ニ破棄ノ通告ヲ為サザリシモ仏國ニ対シテハ遠カラス通知スベキ筈ナリ

一九九 一月十五日 在瑞西國三浦公使ヨリ

本野外務大臣宛(電報)

伊國ノ通商條約廢棄通告ニ關シ瑞西政府ノ意

#### 向報告ノ件

第一四号

伊國ハ日本、羅馬尼、露國、塞爾比、西班牙、瑞西トノ通商條約破棄ノ通告ヲ為シタル旨ノ羅馬通信ニ關シ外務局長ヲ訪問シタルニ其ノ答フル所左ノ如シ  
一、瑞西ハ昨年十二月伊瑞通商條約ヲ破棄スル旨ノ通告ヲ伊國政府ヨリ受ケタルカ突然ノコトニテ驚愕ノ感ヲ懷キ居レリ

二、伊國ハ最惠國条款ヲ包含スル所ノ通商條約丈ヲ破棄スルノ通告ヲ為シタルモノノ如シ故ニ例ヘバ關稅ノ取極アル伊仏條約ノ如キハ破棄セサルナリ

三、本件ニ關シ瑞西政府ハ未タ伊國政府ノ意向ヲ知ラズ從

本件ニ關シ一月十日発往電第五号ヲ以テ申進置候處同書記官帰朝ノ上ハ同官ニ對シ本省ニ於テ通商條約並經濟事情ニ關スル調査事務ノ担任ヲ命シタキ考ニ有之同官ニ歐洲經由帰朝ヲ命シタルハ右事務担当ニ資セシムル為ニ外ナラサル儀ニ候間其含ヲ以テ所定ノ期間内ニ歐洲ニ於ケル諸般ノ視察ヲ為シ置ク様同官ニ對シ御伝達相成度尚伊國政府ヨリハ本年末日ヲ以テ日伊間通商航海條約ヲ廢棄スヘキ旨已ニ通告シ來リ居リ右改訂ニ關スル交渉ハ来五六月頃ヨリ開始スルコトト可相成被存候ニ付同官伊國滯在中ハ右改正事項ニ關スル調査ヲ遂ケ遲クモ五月末日迄ニハ本邦帰着スル様併セテ御伝達相成度此段申進候也

機密送第二号

テ未タ何等其ノ態度ヲ定メ居ラサルモ戰爭終了期日モ不明ニシテ多忙ヲ極メ居ルヲ以テ恐ラクハ本年末ニ至リ六個月位ノ期間ニテ暫定條約ヲ結フノ外ナカルベシ

二〇〇 一月十六日 在米國佐藤大臣宛

本野外務大臣ヨリ

川島書記官帰朝ノ途次伊國ニ於テ日伊通商條約改正事項ヲ調査スル様伝達方ノ件

使ト会談シタリ

是レヨリ先キ一月十二日ノ「トリビューン、ド、ジュネーブ」新聞ハ日本ノ開院式勅語ノ一節ニ「伊國政府ハ現行日伊通商條約ヲ破棄シテ關稅同盟ヲ締結セントノ希望ヲ日本政府ニ通知シタリ」ト之レ有リタルヲ見タルニ付本使ハ「ジユラツソ」氏ニ向ヒ伊國政府ハ伊瑞(西)通商條約破棄ノ通告ヲ為シタル由ナルガ伊國ハ追テ瑞西ト關稅同盟(Union douanière)ヲ締結セントスル意思ナリヤト尋ネタルニ氏

ハ然ラズト答ヘ尚瑞西其他數國トノ現行條約ハ特ニ其關稅ノ關係ニ於テ現今ノ伊國ノ經濟狀態ニ適應セザルガ為メナリ且ツ本件ニ關スル調査ハ此戰爭前ヨリ伊國其筋ニテ既ニ調査ニ着手サレ居リタルモノナリト述ベタリ、依テ本官ハ同氏ニ向ヒ若シ戰爭起ラザリシモノト仮定スルモ伊國ハ右等條約ヲ破棄スル所存ナリシヤト問ヒタルニ氏ハ然リト答へ且ツ此戰爭ノ為メ破棄ノ通告延引シタリト述ベ尚戰爭モ何時済ムカ判ラザルニ付若シ本年内ニ戰爭終了セザル場合ハ現行條約ヲ例ヘバ更ニ六ヶ月間有効ノモノト看做スノ取極ヲ結ブカ又ハ暫定條約ヲ締結スルノ外ナカルベシト附言シタリ又本官ハ何故ニ伊仏條約ハ破棄セザルカト問ヒタル

シテ日本、「ルーマニヤ」、露國、「セルビヤ」、西班牙及瑞西トノ通商條約破棄ノ通告ヲ為シタル旨ノ羅馬通信ニ關シ當國政務省外務局長「ジユナン」氏ノ本使ニ語リタル次第ハ一月十五日發往電第十四号ヲ以テ御報告ニ及ビ置キ候

一月二十四日在当地伊國代理公使「ジユラツソ」氏(Le Marquis Durasso)ヲ訪問シタル節(伊國公使ハ其息子ガ「カルフ」方面ニテ砲弾ニ中リ重傷ヲ負ヘル旨ノ報道ニ接シ數日前當地出發帰國中)本使ハ本件ニ關シ同代理公

五 日伊通商航海条約改締及暫定取極締結一件 二〇二 二〇三 二〇四 二〇五

一六六

ニ氏ハ伊仏条約ニハ関税ニ関シ種々ノ取極アリト記憶スト  
答ヘ且ツ今度破棄ノ通告ヲ為シタル諸条約ハ同様ノ一群

(グループ)ヲ為シ居ルモノト思フト述ベタリ

会談ノ際本官ノ感知シタル所ニテハ「ジユラツソ」氏ハ深  
ク本件ノ真相ヲ知リ居ラザルカノ如ク思ハレタルモ何等御  
参考迄ニ右及報告候 敬具

二〇一 二月三日 勝田外務大臣ヨリ  
　　勝田大蔵大臣及仲小路農商務大臣各宛

日伊通商航海条約改正ニ関スル件

通機密合送第二五号

日伊通商航海条約廃棄ノ通告接受ノ件ニ關シ客年十二月二

十九日附通告第七六八号ヲ以テ申進置候次第有之候処今般在伊伊集院大使ヨリ本件ニ關シ別紙写ノ通電報有之候間此段申進候也

註 別紙ヲ省略ス別紙ハ前掲伊集院大使來電第九号及第一〇号ナリ(但シ少許字句修正アリ)

二〇三 五月十四日 在伊国伊集院大使ヨリ  
　　本野外務大臣宛(電報)

新駐日伊国大使日伊通商条約改正ニ關シ訓令

二〇四 六月二十九日 在伊国伊集院大使宛(電報)

伊国ノ通商条約廃棄後關稅法改正ノ進捗状況、  
　　各國トノ交渉状況等問合ノ件

貴電第九号ニ關シ(イ)伊國關稅法改正其後ノ成行(イ)他國ト條

約改正談判ヲ始メタルモノナキヤアラハ其経過(ニ)其後仏希兩國ニ対シテモ通商協定廃棄ヲ申込ミシヤ(四)独墳トノ協定税率ハ宣戰後第三國貨物ニ対シテモ消滅シ居ルヤ何レモ大要電報アレ

二〇五 六月三十日 在伊国伊集院大使宛

一九〇五年十二月以降一九一一年八月迄ノ伊

国条約集送付方訓令ノ件

通送第二一号

本年一月八日附機密第二号貴信ヲ以テ御送附相成候伊国条約集ハ一九一一年九月ヨリ一九一四年七月ニ至ル分ノミニ有之去ル明治四十三年十月十日附ニテ林前任大使ヨリ阿部參事官宛送附ノ伊国条約集第十七卷輯錄以後(第十八卷八目次)ノモノ即チ一九〇五年十二月以降ノモノニシテ一九一一年八月ニ至ル迄ノ分欠如致候間右不足ノ部分ヲ取揃ヘ至急御送附相成候様致度此段重ネテ及御依頼候也

二〇六 七月四日 (幣原外務次官ヨリ  
　　上山農商務次官及市来大蔵次官各宛  
　　日伊通商航海条約改正ニ關シ考量方及調査方  
　　依頼ノ件  
　　通機密合送第一七六号

兼テ調査方御依頼致居候本年十二月末日ヲ以テ終了スル日伊通商航海条約ニ関シテハ(イ)之ニ一部改締ヲ加へ適當ノ時期迄存続セシムヘキ仮協定ヲ結ブカ(ニ)該条約ニ代へ最惠国待ヲ延長セシムヘキカ(三)該条約ヲ其ノ眞适当ノ時期迄効力遇ノ交換ヲ骨子トスル仮協定ヲ結ブヘキカ以上三方法何レ

註 附屬別表ヲ省略ス

二〇七 七月六日 在伊国伊集院大使ヨリ  
　　本野外務大臣宛(電報)

ヲ受ケ居ラザル旨談話ノ件

第六五号

新伊国大使「クサニ」ハ外務大臣ヨリ赴任ヲ急カレ昨十三日当地出発セリ一先ヅ郷里「ミラン」ニテ用事ヲ済マシ巴里ニテ赴任航路ヲ確定スル筈ナル趣ナリ出発前同人ニ対シ本使ハ条約改正ノ件ニ關シ何等カノ訓令ヲ受ケ居ルヤヲ尋ネタルニ一切受ケ居ラスト答ヘタリ

五 日伊通商航海条約改締及暫定取極締結一件 二〇六 二〇七

一六七

五 日伊通商航海条約改訂及暫定取締結一件 二〇八 二〇九

一六八

### 伊国関税法改正調査進捗状況及通商条約改訂

問題其ノ後ノ成行回報ノ件

第八七号

貴電第二九号ニ関シ

(1)伊国関税政策調査委員ハ満四年半ニ涉リ調査ノ結果右政策ノ根本主義ヲ左ノ六点ニ分ケ此頃政府ニ報告セリ

最高最低税率主義ヲ採用スルコト、特殊國ノ特殊品目ヲ限り特惠税率ヲ設クルコト、殖民地ニハ特別関税法ヲ実施スルコト、或ル國カ伊国商品ニ対シ特殊重税ヲ課スル場合ニ

ハ伊国モ亦其ノ國ノ品目ニ対シ同様ノ報復税ヲ課スルコト、「ダンピング」ヲ防クタメ特殊税ヲ課スルコト、加工後再輸出ノ目的ヲ以テ輸入スル品目又ハ再輸入ノ目的ニテ輸出スル商品ニハ戻シ金又ハ奨励金ヲ与フルコト

政府ハ右六主義ニ基キ課税表ヲ製作シ議会ノ協賛ヲ経ル前ニ両院議員十名ツツヨリ成ル調査委員会ニ之ヲ提出シ其ノ研究ノ結果ヲ議会ニ提出スルコトシ右ノ委員会ニ関スル法案ヲ六月二十九日議会ニ提出セリ議会ハ不日右法案協賛ノ見込ニ付政府ノ予定ニテハ本年十一月中ニ委員会ノ税率

調査ヲ遂ケ十二月中ニ議会ノ協賛ヲ経ル予定ナリ

二〇九

一六九

(2)何国トモ未タ談判ヲ開始セス

(3)希仏両国ニ対シ本年六月ヲ以テ右両国トノ通商協約本年末ニ失効セシムル旨通告セリ

(4)敵国トノ協定税率ハ宣戰後依然第三国ニハ均霑セシメ居レリ

二〇八 七月十六日 本野外務大臣宛(電報)

伊国議会関税率調査委員会任命ノ件

第九二号

往電第八七号(1)ニ関シ関税率調査委員会法案ハ其定員ヲ十五名宛ニ、提出スル税率表編成期限ヲ来ル九月末迄トシ編成委員ヲ夫々任命セリ

二〇九 七月十七日 本野外務大臣ヨリ

伊国関税政策調査委員ノ決定セル最高、最低、

特惠三税率ニ付問合ノ件

第三〇号

貴電第八七号ニ関シ

(1)最高、最低、特惠三税率ハ如何ナル標準ニ依リ附与スル

公第六一号 (九月二十六日接受)

大正六年七月二十日 在伊

二一一 七月二十日 本野外務大臣宛(電報)

伊国関税及通商条約改正調査事業ノ成行ニ關

スル件

附屬書 議会関税調査委員会設置ニ關シ伊国議会ニ提出ノ文書訳文

公第六一号

大正六年七月二十日 在伊

特命全權大使 伊集院彦吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

(1)最高税率ハ伊国ニ最恵待遇ヲ供与セサル一切ノ国ニ対シ

之ヲ適用シ最低税率ハ最恵待遇ヲ受クル国ニ対シ其ノ全部又ハ一部ヲ適用ス(一部適用ノ例ハ千九百十年ニ協定セル伊国加奈陀間ノ如キ協定税率アル場合ニ加奈陀ニ対シ適用スル考ナル由)

(2)更ニ一層緊密ナル通商關係ヲ締結スルコトヲ希望スル國ノ為適當ナル利益ヲ交換シ特恵待遇ヲ條約ニ依リテ設定シ且此待遇ハ何レノ場合ニ於テモ最恵条款適用ノ範囲外トス委細郵便

五 日伊通商航海条約改訂及暫定取締結一件 二〇八 二一一

一六九

会調査委員会設置ニ関スル法律案提出セラルルニ迨ノデ初

メテ公表セラレタルモノトス

一、関税ハ複税率制ヲ採用スルコト

二、特別緊密ナル通商關係ヲ有スル國ト特惠待遇方法ヲ設

クルコトヲ得ルコト但此ノ特惠待遇ハ最惠國条款ノ適用  
ノ範囲外トスルコト

三、殖民地ニ於ケル関税制度ハ別ニ之ヲ定ムルコト

四、伊国商品ガ外国ニ於テ特ニ不当不利ノ待遇ヲ受クル場  
合ニ対応スル報復方法ヲ定ムルコト

五、輸出獎励金ヲ受クル外國品ニ対シ追加税ヲ課シ其ノ他  
必要ナル措置ヲ採ルコト

六、戻税制度ハ再輸出ヲ目的トスル仮輸入及ヒ再輸入ヲ目  
的トスル仮輸出ニ対シ必要ノ場合ニハ之ヲ維持スルコト

既述ノ通調査会ノ調査ハ戦争ノ結果遲延シ僅カニ右ノ如キ  
大方針ヲ確立シタルノミニテ之ヲ基礎トシテ起草セラルヘ  
キ関税法案未だ脱稿ヲ見サルノ状態ナルヲ以テ伊国政府ハ

調査会ノ提議ニ基キ事務ノ簡便ヲ図リ議会調査委員会設置  
ニ関スル法案ヲ今期ノ議会ニ提出シ代議院ハ原案第一條中

議員各十名トアルヲ十五名ニ改メ又関税案ノ次ニ「及其ノ  
ニ関スル法案ヲ今期ノ議会ニ提出シ代議院ハ原案第一條中

#### 出文書説文

外務・大藏・国庫・農務各大臣ト協議ノ上工商

労務大臣「デ・ナーヴア」ヨリ千九百十七年

六月二十九日伊國代議院へ提出

#### 法案理由書

伊國関税表ハ千八百八十七年ノ制定ニ係リ爾來屢次變更ヲ  
加ヘ今日マテ實施シ來リタルガ千九百十三年中時ノ政府ハ

國內産業ノ振作ヲ企圖シ其ノ需要ニ應スルカ爲関税率表及

通商條約改正ノ必要ヲ認メ同年一月二十三日勅令ヲ以テ農

商工務省ニ改正準備調査委員會ヲ設置シ伊國現行関税制度

ヲ調査講究シ以テ新通商條約改締ニ當リ準據スヘキ原則ト

標準トヲ決定セシムルコトヲ其ノ任務トセリ這次ノ戰亂ハ

調査會ガ各種産業ノ實況ニ關スル報告情報聚集ノ中途ニ於

テ勃發シ世界ノ經濟關係ヲ攪亂變化セシメ延テ本調査會覈

査事項ノ内容ニ一部分ノ變更ヲ生セシムルコトナレリ

調査事業ノ結了ハ之ガ爲少シク遅延シタルモ調査會ノ本來  
ノ目的ト職務即伊國農工生産業ノ新生面及其ノ要求ニ基ク  
保護ノ必要ヲ稽查シ且時勢ト國家ノ需用ニ應スヘキ商業政  
策ニ關スル方針ト其ノ實行ニ適スル關稅率案ヲ政府ニ提供

策ニ關スル方針ト其ノ實行ニ適スル關稅率案ヲ政府ニ提供

五 日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件 一一一

二二一

施行細則」ナル文字ヲ挿入シタル上七月七日通過シ（往電

第八七号第九二号參看）又元老院ハ別ニ議論ヲ為スコトナ

ク同月十五日之ヲ協賛シタリ

既ニ商工労務省内ニ改正準備調査委員會ノ設ケアルニ對シ

更ニ議会調査委員會ヲ設置スル理由ハ今後政府ニ於テ政府  
側ノ機関タル改正準備會ノ提案ニ基キ關稅原案ヲ確定シタ

ル上之ヲ議会ニ提出シ議会ハ更ニ一般ノ手続ニ依リ之ヲ調

査スルトキハ多大ノ日数ヲ要シ為ニ時機ヲ失スルノ虞アル  
ヲ以テ政府ヨリ議会へ提出前右議会調査委員會ヲシテ予メ

調査セシメ議会へ提出後ノ調査ヲ容易ナラシメントスルノ  
趣旨ニ外ナラサルナリ

而シテ伊國議會ガ今回協賛シタル前記議会調査委員會設置  
ニ關スル法律案提出理由書中ニハ伊國關稅制度及條約改正

準備會ノ調査ノ成行及其ノ採用シタル決議並其ノ理由等ニ  
關スル詳細ナル記述有之候ニ付御参考ノ為其ノ原文及訳文  
註

差進候条御查閱相成度候也

註 原文省略  
（附屬書）

議會關稅調査委員會設置ニ關シ伊國議會ニ提

スルコトニ於テハ依然トシテ變更ヲ見ルコトナシ

調査會ハ税率表ノ編纂ヲ急ガントスルモノナルモ差當リ新  
經濟及關稅制度劃定ニ際シ準據スルヲ要スル一般的原則ヲ

政府ニ提示スルコトヲ適當ト信シタルヲ以テ調査會ニ於テ  
決議シタル常設委員會ノ關係提案ヲ本報告ニ添付シタリ

議會ハ今ヨリ直ニ右提案ノ調査ニ着手シ同案ニ付輿論ノ意  
向ヲ問フコトヲ便トスヘシ

今茲ニ調査委員會ノ提案ト之ニ對スル賛成說ノ論據ト反對

說ノ要旨トヲ簡單ニ摘錄スルハ無益ニアラサルヘシ

調査委員會ハ複税率（二重税率）制ヲ採用セムコトヲ提議

ス其ノ高税率ハ伊國ニ最惠待遇ヲ許容セサル一切ノ國家ニ  
對シ又低税率ハ伊國ガ優惠待遇ヲ得タル國家ニ對シ全部又

ハ一部ヲ適用スルニアリ尚從屬的提議トシテ互惠協定ノ締  
結、外國廉賣法防衛ニ關スル方策及他國ガ伊國ノ通商ニ障

礙ヲ來スカ如キ特別ノ重稅ヲ課スル各個ノ場合ニ對應スヘ  
キ關稅上ノ報復手段ニ付テモ準備スル所アリタリ、調査委

員會ノ見解ニ依レハ以上ノ提案ハ如何ナル狀況ニ於テ經濟  
的新協定ニ關スル談判ヲ開始スルモ常ニ内國産業ヲ保護シ

一七一

且他國ト對等ノ條件ニ於テ商議ヲ指導スルノ方法ヲ政府ニ提供スルモノナルヘシ

調査委員會ノ提案ハ關稅協定ヲ有スル一切ノ通商條約ガ或ハ戰爭ノ結果ニ依リ或ハ自然的終了ニ依リ或ハ廢棄通告ニ依リ本年末ヲ以テ失効スヘキコトヲ前提トスル現状態ヲ予想シテ考案シタルモノトス

調査委員會ノ所見ニ依レハ前記ノ條件ニ於テ我國カ第一ニ要望スル所ハ伊國輸出品ガ外國市場ニ於テ不利ノ差別的待遇ヲ受ケサルコトヲ保障スル新條約ヲ速カニ締結スルノ運ニ至ランコトニアリ而シテ恁ハ國定複稅制 (*sistema autonomo della doppia tariffa*) ニ依リテ實行シ得ヘキモノナリ、伊國ハ外國ノ最低稅率又ハ最惠協定待遇 (Il trattamento convenzionale più favorevole) ヲ得ル爲其ノ最低稅率ヲ提供シテ直ニ談判ヲ進捗シ得ルモノニシテ之レ新制度採用ノ結果得ラルヘキ第一ノ利益ナリトス

一方ヨリ考フレバ新條約ノ談判ハ今後果シテ如何ナル政治的並經濟的狀況ノ下ニ舉行セラルモノナルヤ今ヨリ予メ之ヲ察知スルコトヲ得サルヲ以テ如何ナル場合ニモ對應シ得ル様周到ナル準備ヲ爲スヲ以テ策ノ得タルモノトス然ルスル國ニ外ナラスト

第二ノ反對說ハ通商條約ハ内國生産品特ニ農產物ノ如ク内國市場ノミニ依頼スルコト能ハスシテ外國ニ輸出スルコトヲ要スルモノニ對シ其ノ販路ヲ保障スヘキ効力ヲ有スルモノナルガ國定複稅率制度ハ如此通商條約ヲ伊國ノ利益ニ適合スル様締結スルニ當リ妨害トナルモノナリト謂フ一種ノ危惧心ニ由來スルモノナリ此ガ例證トシテ綢物及木綿物ノ外主トシテ輸出貿易ヲ賴ミトスル北部並ニ南部ノ特種農產物ヲ擧示セリ

以上ノ反對說タルヤ何レモ一理ヲ有スルヲ以テ一概ニ之ヲ

多數ノ國ハ近年ニ至リ右ノ制度ヲ採用シ又漸次接手スル報告ニ依レハ他ノ諸國モ亦此ノ制度採用方ニ傾キツツアルノ事實ハ看過スヘカラサル所ナリトス

上叙ノ事由ハ王國調査委員會ガ決議ヲ爲スニ當リ關稅獨立ノ利益ヲ主張スル普通ノ論據ニ對シ一段ノ強味ヲ加ヘタリ關稅獨立ヲ主張スル普通ノ論據ニ付テハ世人ノ周知スル所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ絮説ヲ須ヒサルモ要スルニ獨立關稅ハ

其ノ性質技術上最良ナルコト、其ノ編纂及變更ニ際シ議會ガ一層大ナル監督權ヲ行ヒ得ルコト、談判中ノ瑕疵アルモ其ノ結果ハ比較的重大ナラサルコト之ナリ

サレバ王國調査委員會ハ更ニ深ク議論ヲ闡ス迄モナク且又主トシテ特殊ノ技術的方面ヨリ觀察シテ茲ニ提唱スル方法ハ現時ニ於ケル實際的必要ニ依リ殆ト強要セラルモノナルコトヲ主張スルモノナリ

排斥スルコトヲ得ス調査會ノ多數說側ニ於テモ此ノ點ニ付慎重ニ研究ヲ重ねタリ然レトモ多數說側ニ於テハ國定稅率 (Tariffa Autonomo) ヲ制定スルモ適當ノ裁量ヲ以テ之ヲ適用スルニ於テハ反對論者ノ憂惧スルカ如キ不利ヲ生スルコトナカルヘシト云フニ一致セリ

委員會ノ見解ニ依レハ極端ナル保護主義ノ實質ハ國定主義ヨリ由來スルモノニアラスシテ寧ロ最低稅率表ニ於ケル稅率ノ高キニ失スルニ因ルモノニシテ若シ此ノ最低稅率高キニ過クルトキハ之レ即過度ノ保護主義ニシテ條約締結ノ障害トナルモノナリト謂フヲ得ルナリ通商條約ハ複稅主義又ハ單一稅主義ノ何レニ依ルモ之ヲ締結シ得ヘキモノタルハ實際ニ微シテ瞭カナリトス

以上ハ伊國關稅制度改正調査委員會ガ研究ノ結果得タル結果ニシテ調査會ハ議會及政府ニ對シ只之ヲ正確ニ報告スルヲ目的トスルモノナリ政府並ニ議會ニ於テハ又夫々其ノ機關ヲシテ研究セシムルコトヲ要スヘク且特ニ上叙ノ標準ニ依リ適當ナル稅表ヲ制定セサルヘカラサルヲ以テ夫レ迄ハ如何ナル決議ヲモ採用スルコトヲ得サルヘキハ勿論ナルベ

伊國現時ノ状態ハ戰前ニ於ケル状態トハ其ノ趣ヲ異ニスル

ハ疑ヲ容レズ尤モ戰前ニ於テモ一般的關稅制度ノ改正ヲ目的トシタリト雖當時ニ於ケル條約改正ニ於テハ中央帝國トノ條約ハ之ヲ適當ニ修正スルトキハ依然爾餘ノ條約改正談判ノ基礎タルヲ得ヘント看做サレタルヲ以テ通商條約系統ニ於ケル根本的變更ヲ予期スルコトナカリシナリ

然ルニ之ニ反シ今日吾人ノ目前ニハ頗ル多數ノ未可知ノ現象ノ存在スルコト及之ニ對スル具體的行動ニ出ツルノ可能如何ハ未ダ正確ニ之ヲ定ムルコトヲ得サルコト之ナリ換言スレバ吾人ハ關稅及通商政策ニ關スル他國ノ意向方針ヲ最モ明確ニ知悉シタル後ニアラサレハ吾人ノ採ルヘキ態度ヲ決定的ニ選擇スルコトヲ得サルモノナリ

然リト雖至難ナル本事業ニ於テ執ルヘキ態度ノ如何ニ拘ラス次ノ事項ハ確実ナリト云フヲ得ヘシ乃チ吾人ガ必ス準備シテ缺クヘカラサルモノ別言スレバ吾人ノ整頓スヘキ武器ナルモノハ一方ニ於テハ伊國産業ニ對スル經濟的利益ヲ保護スルタメ凡百ノ専門的分子ニ付考慮ヲ加フルト同時ニ他方適切ナル通商條約ノ締結ヲ可能ナラシムル爲入念ニシテ

割切ナル關稅率表ヲ具備スルコト即是ナリ

政府ノ焦慮スル所ハ如何ニセハ前記稅表ヲ議會ニ提出シ可成速ニ其ノ協賛ヲ受クルコトヲ得ルヤニアリ而シテ吾人ガ茲ニ議會ニ提出スルノ光榮ヲ有スル法案ハ即此ノ目的ヲ達成スルガ爲ニ外ナラズ

王國調査會ハ政府ヨリ最モ迅速ニ調査ヲ終ランコトヲ需メラレタルモノナルガ問題ノ重大ナルコト及如何ナル場合ニ對シテモ準備シ置クノ必要アルコトヲ諒知スルヲ以テ稅表ノ起草ニ鞅掌シ數月以内ニ之ヲ完了スヘキコトヲ聲明ス然レトモ該稅表ガ結局裁可ヲ得ルニ至ル迄ニハ幾多ノ手續ヲ經過セサルヘカラサルコトハ政府ニ於テ今ヨリ考慮ニ加フルコトヲ要スルヲ以テ議會ガ其ノ同意即最終ノ決答ヲ與

ヘ得ルノ方法ヲ政府ヨリ議會ニ提供スルコト必要ノ處置ナリト思惟ス

稅率表ノ經サルヘカラサル立法手續ハ其ノ性質上長時日ヲ要スルノミナラス其ノ調査又容易ナラス特ニ現在ニ於テ層困難ナルハ敢テ言フヲ要セサルヘシ

茲ニ於テ稅率案ヲ正式ニ議會ニ提出スルニ先チ議會ノ一機

關ヲシテ予備的調査ヲ爲サシメ以テ議會ノ事業ヲ容易且迅速ナラシムルノ必要生スルハ瞭ナリトス此ノ必要ハ他ノ諸國ニ於テモ同様經驗セラレタル處ニシテ此カ適例ヲ舉クレバ千九百十年三月二十九日ノ法律ヲ以テ實施セラレタル佛國關稅制度改革事業ハ主トシテ議會關稅調查委員會ノ遂行シタル所ナリ

尤モ右佛國ノ例ハ問題ノ内容ヲ異ニスルモノナレバ伊國ノ

場合ニ符合スルモノトシテ之ヲ舉例シタルニアラス單ニ定期間内ニテ議會側ニ於ケル準備事務ヲ完成スルコトヲ必要トスル場合アルコトノ實例ヲ示スニ過キサルモノトス反之若シ普通ノ手續ニ依ランカ王國調査委員會ノ事業終了後政府ハ其ノ法案ヲ議會ニ提出スヘク議會ハ此ノ時ニ至リテ初メテ予備調査ヲ開始シ而シテ後議會ニ附議スヘク若シ實際此ノ如クナランカ必要ノ場合ニ際シ全ク不用意無準備タルノ危險ニ遭遇セサルヘカラサルヘシ

現在ニ於テ必要ナルハ慎重ニシテ敏活ナルニアリ慎重ハ準備ヨリ來リ敏活ハ本調査會ノ提議ヲ實行スルニアリ

即法案第一條ハ王國調査委員會ノ研究及提議ニ準據シ政府が編纂スル關稅案ヲ議會ノ兩院ニ提出スルニ先チ之ヲ調査會

爲外國トノ通商協定ニ關シ直ニ措置ヲ爲スヲ要スルカ如キ  
絶對的緊急ノ場合ニ際シ最善ノ解決方法ヲ採ルコトヲ得ヘ  
シ尤モ右ノ如キ萬一ノ場合ハ既述ノ如ク千九百十七年末マ

テハ發生スルコトナキガ如シト雖現今ノ如キ前途ヲ予測ス  
ヘカラサル非常特別ノ場合ニ於テハ之ヲモ予想スルコトヲ熟  
慮アル處置ナルベシ

緊急ノ場合ニ於テハ政府ノ責任ヲ以テ法律ヲ變更スヘキ勅  
令ニ依リ臨機ノ措置ヲ爲シ得ヘキモノ事苟クモ議會ノ主タル  
職務權限ニ屬スル場合ニ於テハ更ニ一層有効ナル手段即チ

第一條ノ定ムル議會調查委員會ノ意見ニ依リ措置ヲ爲スヲ  
適當ト思惟ス

將來永ク國家ノ經濟的運命ヲ左右スヘキモノタル現在ノ關  
稅經濟制度改正ノ如キ広汎ナル事業ニ於テ權威アル兩院代  
表者ノ協力ノ甚タ有効ナルコトハ言ヲ須ヒサル所ニシテ若

シ如此場合ニ於テ單ニ本法第二条ノ規定スル方法ノミニ依  
リ之ヲ遂行シ去ランコトヲ主張スルカ如キコトアランカ吾  
人ハ吾人ガ有セサルヘカラサル誠実ノ素質ヲ缺欠スルモノ  
タルコトヲ信セントスル者ナリ

茲ニ於テ吾人ハ現時國家非常ノ秋ニ於ケル最モ緊急ノ需用

## 附屬

### 關稅制度及通商條約調査ニ關スル王國調査委員會

本調查委員會ハ千九百十三年一月二十三日勅令第四二  
號ヲ以テ設置セラレ伊國現行關稅制度ヲ調査シ新通商  
條約締結ニ對スル原則及標準ヲ決定スルヲ目的トセリ

委員會ハ更ニ三個ノ分科委員會ニ分レ第一ハ農業及農

事工業第二ハ製造工業及礦業第三ハ陸上及海上運輸及  
移民ニ關スル事項ノ調査ヲ分擔セリ（委員名ハ省ク）

調查委員會ノ任期ハ元勅令ニ依レハ二年以内即チ千九  
百十四年十二月三十一日迄ナリシガ其ノ後勅令ヲ以テ  
千九百十七年九月三十日迄延期セラレタリ

千九百十七年五月二十二日委員會本會議ニ於ケル決議  
調査委員會ハ次ノ意見ヲ有ス

一、複税率（una tariffa a due colonne）ヲ採用シ最高  
税率ハ伊國ニ最惠待遇ヲ許容セザル一切ノ國ニ對シ之ヲ  
適用シ又最低税率ハ最惠待遇ヲ受クル國ニ對シ其ノ全部  
又ハ一部ヲ適用スルコト

二、更ニ一層緊密ナル通商關係ヲ締結スルコトヲ希望スル  
税率ハ伊國ニ最惠待遇ヲ許容セザル一切ノ國ニ對シ之ヲ  
適用シ又最低税率ハ最惠待遇ヲ受クル國ニ對シ其ノ全部  
又ハ一部ヲ適用スルコト

五 日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件 一一一

ニ應スヘキ關稅經濟政策ニ關スル法案ヲ提出シ諸君ノ御協  
賛ヲ仰クモノナリ

### 法律案

#### 第一條

千九百十三年一月二十三日勅令第四二号ヲ以テ設置シタル

王國調查委員會ノ提案ニ基キ議會調査委員會ヲ置ク此調查  
委員會ハ政府ヨリ議會ニ提出スヘキ關稅案及其ノ施行細則  
ヲ調査スルヲ目的トシ元老院議員及代議院議員各十五名ヲ  
以テ組織ス

調査委員會ノ委員ハ元老院及代議院ヨリ各々之ヲ互選ス調  
查委員會ノ會長及副會長ハ委員ヨリ互選ス調査委員會ノ議  
事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ投票シタ  
ル所ニ依ル

#### 第二條

現行通商條約及協定失効ノ場合ニ於テ或ル一國ト通商關係  
ヲ約定スル目的ヲ以テ關稅事項ノ改正ニ關スル緊急ノ施設  
ヲ爲スノ必要アル時ハ政府ハ前条ノ定ムル議會調査委員會  
ニ諮詢シ勅令ヲ以テ必要ノ措置ヲ爲スコトヲ得

前記勅令ハ法律ヲ變更スル爲議會ニ提出スヘシ

五、行政官廳、協會、商社等何人ノ行爲タルト又方法ノ如  
何ヲ問ハス貨物ガ原產地ニ於ケル其ノ普通ノ價格ニ普通  
ノ運賃及伊國諸課稅ヲ加算シタル總額ヨリ少額ナル價格  
ヲ以テ伊國ニ輸入販賣セラレ以テ直接又ハ間接ニ輸出獎  
勵金ヲ與フルノ結果トナル場合ニハ王國政府ハ如何ナル  
反對ノ規定又ハ約定ノ存スルニ拘ラス之ト同額ナル追加  
稅ヲ輸入稅ニ附加シ其ノ他如此人爲的競爭ヲ均衡セシム

ル爲必要ナル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ得ヘシ

六、戻税ナル名稱ノ下ニ知ラレタル關稅及課稅上ノ便宜方  
法即原形又ハ同質ノ狀態ニテ再輸出スヘキ外國貨物ヲ加  
工スル爲ノ假輸入及補充的加工ヲ爲シタル後再輸入スヘ

キ内國貨物ノ假輸出ハ國民經濟ニ裨益アル制度ナリト認  
ムルヲ以テ若シ此ノ制度ヲ設ケサルトキハ輸入稅ノ爲又

ハ國內ニ於テ補充的加工ヲ施スコト不可能ナル爲同貨物  
ノ輸入又ハ輸出ヲ爲スコト能ハサルカ如キ場合ニ於テハ

右ノ制度ヲ維持スルコトヲ要スヘシ右ノ制度ハ特定ノ場  
合ヲ限り必要ナル條件ノ下ニ之ヲ設定スルモノナルヲ以

テ國庫ノ損失ヲ來スコトナント認ム  
調査委員會ノ承認シタル前記決議追加

(「パンタノ」氏提出日程)  
關稅經濟制度及通商條約調査委員會ハ工業上並農業上ノ利  
益ヲ調和シ之ヲ擁護スルコト最大急務ナリト認メ各種農工  
分業ノ要求スル所ハ主トシテ其ノ生産品ノ適當ナル販路ヲ  
外國市場ニ確保セントスルモノナルニ鑑ミ一般的及特別的  
各般ノ事由ヲ綜合考察シタル結果最高及最低税率ヨリ成ル  
複稅制ヲ採用センコトヲ政府ニ提議スルモノナルト同時ニ

右ノ制度ヲ維持スルコトヲ要スヘシ右ノ制度ハ特定ノ場  
合ヲ限り必要ナル條件ノ下ニ之ヲ設定スルモノナルヲ以

テ國庫ノ損失ヲ來スコトナント認ム  
調査委員會ノ承認シタル前記決議追加

(「パンタノ」氏提出日程)  
關稅經濟制度及通商條約調査委員會ハ工業上並農業上ノ利  
益ヲ調和シ之ヲ擁護スルコト最大急務ナリト認メ各種農工  
分業ノ要求スル所ハ主トシテ其ノ生産品ノ適當ナル販路ヲ  
外國市場ニ確保セントスルモノナルニ鑑ミ一般的及特別的  
各般ノ事由ヲ綜合考察シタル結果最高及最低税率ヨリ成ル  
複稅制ヲ採用センコトヲ政府ニ提議スルモノナルト同時ニ

政府ニ於テハ今後締結スヘキ通商條約中ニ新關稅表ノ採  
用方針ニ關スル趣旨ト前記産業保護ノ必要トノ調和ヲ圖  
ルニ勗ムルコト肝要ナリト認ムルヲ以テ茲ニ決議シテ前記  
本提議ヲ補足スルモノナリ

二二二 七月二十一日 本野外務大臣ヨリ  
在伊國伊集院大使宛(電報)

伊國ノ通商條約改正方針中特惠稅率ノ適用ニ  
付疑義問合ノ件

第三二号

貴電第九三号ニ閔シ

(一)特惠待遇ヲ最惠國待遇ノ範囲外トスル意図ナルニ於テハ  
現ニ最惠國待遇ヲ約セル英國等トノ條約ヲモ廢棄スル積  
ムル方針ナリヤ

リナリヤ

(二)一特惠國ト約シタル特惠稅率ハ他ノ特惠國ニモ均霑セシ  
御確メノ上回電アリタン

二二三 七月二十三日 在伊國伊集院大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

伊國計画中ノ特惠稅率ノ適用ニ關スル我方ノ

## 問合ニ対シ伊國當局回答回避ノ件

第九六号

貴電第三一号ニ閔シ伊國當局ノ謂フ所ニ依レハ關稅政策調  
査委員ノ調查報告ハ伊國政府ニ於テ其ノ全部ノ主義ヲ採用

スルトシテモ其ノ細目ノ採否及實行手段ノ如何ハ一切決定  
シ居ラス殊ニ政府ノ起案ハ議會ニ於テ如何ナル修

正ヲ見ルヤモ計リ難キ今日政府當局トシテハ右調查員ノ報  
告ヲ基礎トシテ臆測ノ説明ヲ為ス能ハストテ全然回答ヲ避  
ケタリ從テ貴電(ニ付テモ單ニ卑見ニヨレハ伊國が今日迄  
ニ條約廢棄ヲ通告セルハ普通協定稅率ノ取極アル國ニ限ラ  
レ一般ノ最惠取極アル國例ヘバ英國ヲ初メトシ其他ノ諸外  
國トノ條約廢棄ヲ通告シ居ラサル事實及前顯調查報告書中  
ニモ「該調查ハ現行協定條約廢止ヲ前提トシテ起案ス」ト  
ノ語句等ニ徵シ伊國政府ノ意向ハ最惠待遇ト特惠待遇トハ  
如何ナル場合ニモ一切ノ關係ナシト認メ居ルヤニ察セラル  
(二)特惠稅率ハ往電第八七号ニ具報セル通り或ル國ト或ル品  
目ヲ限り協定スル筈ニテ且最惠待遇ノ範圍外ニ置クコトナ  
レハ他ノ特惠國カ之ニ均霑スル途ナシト認ム

二二四 八月九日 本野外務大臣ヨリ  
勝田大蔵大臣及仲小路農商務大臣各宛

日伊通商航海條約失効前ニ暫定的協定締結文

涉開始ノ必要ニ關スル件

通機密合送第二一五号

伊國政府ヨリノ廢棄通告ニ由リ本年十二月末日ヲ以テ終了  
スヘキコトト相成居候日伊通商條約ニ閔シテハ当初去二月

三日付通機密第二五号送付在伊伊集院大使意見ノ通リ先ツ  
伊國政府ヲシテ現行條約ニ代ルヘキ新條約案ヲ提出セシメ  
右ニ基キ審議ヲ加フルコト致度存居候處其後累次申進置  
候通リ伊國政府ニ於テハ新條約談判ノ基礎タルヘキ改正関  
稅定率法ニ閔スル審議容易ニ拂取ラズ漸ク此程關稅調查委  
員会ヲ任命シ来九月末迄ニ稅率ヲ編成スヘキヲ決シタルニ  
過キサル情勢ニ有之從テ前記ノ如ク伊國カ提案ヲ為シ得ヘ  
キ時期迄何等開談ヲ試ミサルトキハ時期或ハ遲キニ失シ  
時無條約ニ至ルノ止ムヲ得サルコト無之ヲ保シ難ク候ニ付  
寧ロ此際我ヨリ進ンテ開談ヲ試ムルコト事宜ニ適セルモノ  
ト云フヲ得ヘク而シテ開談ノ基礎ニ閔シ當省ニ於テハ現行

日伊條約カ多大ノ困難ヲ極メタル後成立セル沿革ト其最モ  
ノ語句等ニ徵シ伊國政府ノ意向ハ最惠待遇ト特惠待遇トハ  
如何ナル場合ニモ一切ノ關係ナシト認メ居ルヤニ察セラル  
(二)特惠稅率ハ往電第八七号ニ具報セル通り或ル國ト或ル品  
目ヲ限り協定スル筈ニテ且最惠待遇ノ範圍外ニ置クコトナ  
レハ他ノ特惠國カ之ニ均霑スル途ナシト認ム

容易ニ妥結ニ至リ得ヘキ形式ナルトニ顧ミ確定条約締結ヲ後日二期スルト共ニ夫迄ノ間六ヶ月又ハ一ヶ月ノ予告ニテ廃棄シ得ヘキ暫定協定ヲ以テ現行条約ヲ存続セシメンコトヲ先ツ伊国ニ提議シ若シ伊国ニシテ到底之ニ応セサレバ第二ノ方針トシテ暫定的最惠国待遇交換ノ基礎ニ由リ善後措置ヲ講スルノ外良策無之モノト思考セラレ候就テハ日伊両國間距離ノ遠隔ナルニ鑑ミ早キニ及ソテ在伊伊集院大使ヲシテ開談セシメ度候ニ付本件ニ関スル御意見何分ノ儀遲クモ來九月一日迄ニ当方へ御通報相成候様致度此段及御照会度候也

追テ兼テ当省ヨリ依頼中ノ諸調査ハ此際至急御送付相成度候也

一一五 九月十七日 本野外務大臣ヨリ  
寺内閣總理大臣宛

日伊通商暫定協約締結方ニ關シ閣議申請ノ件

通機密送第一三二号

現行日伊通商航海条約ハ客年十二月帝国政府カ伊国政府ヨリ受領セル廃棄通告ニ依リ本年十二月末日ヲ以テ消滅ノ筈ナル處伊国政府ニ於テハ新条約談判ノ基礎トナルヘキ改正

zioni fra il Requo d'Italia e gli altri stati) ド林前任大使ヨリ阿部參事官宛明治四十三年十月十日附ヲ以テ送附済

ノ第十七巻及第十八巻(一九〇五年十二月三十一日迄)以後ノ分ニ付テハ目下外務省ニ於テ編纂準備中ナルモ何時刊行ニ至ルヤ不明ナル由ニ有之又本年一月八日附機密第二号

ヲ以テ送付シタル伊国通商閾税条約集ハ大藏省條約閾税局

編纂ニ係リ外務省刊行ノ其後ノ条約集ナカリシニ付代用トシテ當時送附シタルモノニシテ外務省ノ一般条約集トハ別個ノモノニ有之又右大藏省条約集ニ掲載セラルル条約ハ千九百十一年九月ヨリ千九百十四年七月ニ至ル分ノミニハ無之千九百十一年九月現在(in vigore al 1° settembre 1911) 各国トノ通商閾税条約及同年同月ヨリ千九百十四年七月三十一日迄ニ締結セラレタル通商条約ハ全部掲載シアル次第ニ有之右ニ御承知相成度尤モ千九百十四年八月一日以後ノ分ニ付スル追加第二卷ハ未タ刊行

無之ニ付新条約ヲ掲載スル大藏省条約閾税局発行月報左記ノ通取揃ヘ本日書籍郵便ニテ発送致置候間御査収相成度候也

関稅定率法未タ成立ニ至ラサル為メ新条約締結ニ関スル何等ノ交渉ヲ開始スルノ機會ヲ得ス遂ニ今日ニ至レリ然ルニ前記ノ如ク現行条約終了期モ追々切迫シ来レルニ付此際我ヨリ進シテ伊国政府ニ対シテ開談ヲ試ミ新条約ノ締結ヲ後日二期スルト共ニ夫レ迄ノ臨機措置トシテ短期間ノ予告ニテ廃棄シ得ヘキ暫定協約ニ因リ現行条約ヲ新条約実施ノ時迄存続セシメンコトヲ提議スルヲ得策ト認ム

右閣議及申請候也

一一六 九月二十日 在伊國伊集院大使ヨリ  
本野外務大臣宛

日伊通商条約改正準備資料トシテ伊国ノ通商  
条約集送付ニ關スル件

公第八三号

大正六年九月二十日

在伊

(十一月八日接受)

特命全權大使 伊集院彦吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

本件ニ關シ本年六月三十日附通送第二一号ヲ以テ御申越ノ趣了承伊国外務省刊行ノ一般条約集(Trattati e Conven-

記  
関稅通商法制統計月報

(Bollettino di Legislazione e statistica doganale e Commerciale)

一九一四年四月 八月 九月

一九一五年一月 二月 五月 六月 九月 十月

一九一六年二月 三月 五月 八月 十月 十一月

註 送附越ノ書類ヲ省略ス

一一七 九月二十六日 本野外務大臣ヨリ  
寺内閣總理大臣伯爵 寺内正毅(印)

日伊通商暫定協約締結案閣議決定ノ件

内閣外甲一三二号

大正六年九月二十六日

内閣總理大臣伯爵 寺内正毅(印)  
外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿  
指令

大正六年九月十七日通機密送第一三二号

日伊通商暫定協約締結ノ件請議ノ通

二一八 十月一日 本野外務大臣(ヨリ)  
在伊国伊集院大使宛(電報)

**日伊通商条約改正迄ノ為暫定取極締結方伊国**

政府へ申入方訓令ノ件

第四四号

貴電第八七号ニ閲シ日伊現行条約失効期切迫セルニ拘ラズ  
伊国ニ於テハ新条約談判ノ基礎タルヘキ新関税定率法スラ  
未タ成立ニ至ラザルニ付テハ此仮新条約案ニ閲スル伊国ヨ  
リノ提議ヲ俟ツトキハ或ハ時期ヲ失シ両国間無条約關係ニ  
陥ルコトアルヲ恐ル就テハ帝国政府ニ於テハ此際確定条約  
ノ締結ヲ後日二期スルト共ニ夫レ迄ノ間六ヶ月又ハ一ヶ年  
ノ予告ニテ廃棄シ得ベキ暫定取極ノ形式ヲ以テ現行条約及  
附属協定税率ヲ其保存統セシムルコト致度考ヘナルニ付  
貴官ハ帝国政府ノ訓令トシテ右ノ旨至急伊国政府ニ申入レ  
ラレ其ノ同意ヲ得ル様可然御措弁アリタシ又其同意ヲ得タ  
ル上ハ一八九二年伊西間、一九一二年伊伯間暫定取極、一  
九一年七月日伊暫定取極等御参照彼我ノ間ニ交換スヘキ  
公文案ニ付伊国政府ト内協議ヲ遂ケラレ當方ノ承認ヲ求メ  
ラレタシ

二一九 十月十日

在伊国伊集院大使(ヨリ)  
本野外務大臣宛(電報)

**日伊通商暫定取極締結方伊国政府へ申入ノ件**

別電 同日伊集院大使発本野外務大臣宛第一  
二五号

暫定取極ノ基礎ニ閲シ伊集院大使(ヨリ)

第一二四号 (露都經由、十月二十三日接受)  
貴電第四四号ニ閲シ伊国大藏当局ノ意向モ暫定取極ヲ為ス  
ニアルコト略ホ承知シ居リタルヲ以テ既ニ時日モ切迫セル  
ニアルコト略ホ承知シ居リタルヲ以テ既ニ時日モ切迫セル

ニ顧ミ我方ヨリ先ツ希望ノ大体ヲ通告スルコト然ルベシト  
思考シ仏文ニテ御訓令ノ趣旨ニ依リ大要別電第一二五号ノ  
口上書ヲ添付シ右基礎ニ依リ暫定取極ヲ行ヒ度旨竝之ニ對  
シ伊国政府ノ同意ヲ得バ討議ノ基礎トシテ交換公文案ヲ提  
出スヘキ旨十月十日ヲ以テ外務大臣ヘ申送レリ  
右ニ対シ回答アリ次第交換公文案ヲ起草ノ上伊国当局ト交  
渉ヲ進ムル考ナリ  
追テ右仏文ハ郵送ス

(別電)

十月十日在伊国伊集院大使発本野外務大臣宛電報

暫定取極ノ基礎ニ閲シ伊国外務大臣宛口上書大要

第一二五号別電

トヲ希望ス

一、日伊現行通商条約及附属協定税率ハ確定新条約ノ実施

ニ至ルマテ其専効力ヲ持続スベシ

二、伊国及第三國間諸条約カ失効スル場合ト雖モ日本ハ現

ニ最惠国条款ニ依リ均霑スル是等諸条約ノ総テノ利益ヲ

繼續享受スペシ伊国及独墺間ノ条約ニ閲シテモ日本国ハ

繼續享受スペシ伊国及独墺間ノ条約ニ閲シテモ日本国ハ

五 日伊通商航海条約改締及暫定取極締結一件 二一〇

尚為念申進スヘキハ暫定取極案ノ形式トシテ或ハ伊国側ヨ  
リ単純ナル最惠国待遇ノ交換ヲ提議スルコトアランモ右交  
換ハ伊国ニ於テ第三國殊ニ仏、瑞西等トノ税率協定ヲ廢棄  
スル以上我ハ伊国ニ於テ何等均霑利益ヲ得サルニ拘ラズ伊  
国ハ本邦ニ於テ傘用綿布、葡萄酒、「ヴエルモット」、自動  
車、毛織物等重要品一切ニ付英仏トノ協定税率ニ均霑スル  
ニ至リ我ニ採リ甚タ不利ノ結果トナルヲ以テ其御含ミニテ  
右様ノ提議ハ排斥スル様御折衝アリタシ

尚本年末失効スヘキ仏蘭西、瑞西、露西亚トノ条約ニ対ス  
ル伊国政府ノ態度電報アリタシ

二一九 十月十日

在伊国伊集院大使(ヨリ)  
本野外務大臣宛(電報)

**日伊通商暫定取極締結方伊国政府へ申入ノ件**

別電 同日伊集院大使発本野外務大臣宛第一  
二五号

暫定取極ノ基礎ニ閲シ伊集院大使(ヨリ)

第一二四号 (露都經由、十月二十三日接受)  
貴電第四四号ニ閲シ伊国大藏当局ノ意向モ暫定取極ヲ為ス  
ニアルコト略ホ承知シ居リタルヲ以テ既ニ時日モ切迫セル  
ニアルコト略ホ承知シ居リタルヲ以テ既ニ時日モ切迫セル

伊国政府ノ採用シツツアル実例ニ隨ヒ是等条約カ恰モ現  
行ナルト同様ニ是等条約ノ利益ヲ繼續享受スベシ (貴電  
第四四号ニ依リ本項ノ理由トシテ單純ナル最惠国待遇ノ  
適用ニテハ實際相互主義ニ反シ日本ニ対シ不利益ナル結果  
ヲ來スベキヲ附記説明シ置ケリ)

三、右暫定協定ハ公文ノ交換ヲ以テ之ヲ行ヒ一年若ハ六ヶ  
月ノ予告ヲ以テ廃棄スルコトヲ得ルモノタルヘシ

(十月十六日正午露都發電第九七二号)  
(十月十七日接受)

二一〇 十月二十三日 在伊国伊集院大使(ヨリ)  
本野外務大臣宛(電報)

**日伊通商暫定取極ニ閲シ伊国大藏省条約局長  
談話ノ件**

第一三一号

貴電第四四号ニ閲シ

大藏省条約局長ガ館員ニ語ル處ニ依レバ伊国政府ハ本年末  
ニ終了ス可キ各条約國(仏蘭西、瑞西、露西亚ヲ含ム)ニ  
対シ一律ニ單純ナル最惠条款ヲ含メル暫定取極ヲナサンコ  
トヲ希望シ近々右ノ提議ヲ發スル筈ナルガ日本ノ申出ハ右

五 日伊通商航海条約改締及暫定取極締結一件 二二一 二二二

一八四

ト行違ニ外務省ニ提出サレタル次第ナリ而シテ右等各国ハ暫定取極ニ同意ス可シト信ゼラルルヲ以テ各國トモ現時享有スル最惠待遇ヲ当然繼續スルコトトナリ從テ待遇上日本品ハ伊国ニ於テ日本ノ懸念セラルル如キ不公平ノ待遇ヲ受クルコトナカラント語レリ右ハ伊国政府ヨリノ公然ノ提議ヲ待テ更ニ電報ス可キモ不取敢申進ス

尚独墺両国ガ伊国ニ於テ戦前ニ有セシ特權ハ今日依然第三國ニ均霑セシメ居レル次第ハ往電第八七号ノ通ナルガ大藏当局ノ説ニ依レバ日本ハ一昨年四月一日ヨリ日本ト独墺間ノ条約ハ戦争ニ依リテ廢棄セラレタルモノト見做シ帝国内ニ於テハ右特權ヲ第三國ニ均霑セシメザルコトナリ居レリ伊国モ亦前記独墺ノ有セシ権利ヲ第三國ニ繼續均霑セシムル可否ニ付テ目下研究中ナリト語レル由ナルガ右ノ日本ニ関スル点ハ事実ナリヤ本使心得迄ニ電報アリ度シ

二二一 十月二十五日 本野外務大臣ヨリ  
在伊国伊集院大使宛(電報)  
伊国トノ単純最惠国待遇交換ハ日本ニトリ不  
利ナルニ付日本ト同一立場ニ在ル仏、瑞西ノ  
態度探査方訓令ノ件

二二二 十月二十七日 本野外務大臣ヨリ  
在伊国伊集院大使宛  
日伊通商条約改正参考調査書類送付ノ件  
附屬書一 伊太利ト諸外國トノ条約關係調査  
二 伊国重要輸入品本邦別輸入額表  
三 日伊協定ニ依ル本邦関稅減收額調

- (大正元年及二年)  
四 日伊協定ニ依ル伊国關稅減收額調 (大正元年及二年)  
五 最惠国待遇ニ依リ伊国品カ本邦ニ於テ受クル利益 (大正元年及二年)  
六 最惠国待遇ニ依リ日本品カ伊国ニ於テ受クル利益 (大正元年及二年)

(附屬書一)

伊太利ト諸外國トノ條約關係調査

日伊条約改正談判ニ関スル参考トシテ本省調査「伊太利ト諸外國トノ条約關係調査」並ニ大藏省調査「本邦重要輸出品伊国々別輸入額表」伊国重要輸入品本邦別輸入額表「日伊協定ニ依ル本邦關稅減收額調」「日伊協定ニ依ル伊国關稅減收額調」、「最惠国待遇ニ依リ伊国品カ本邦ニ於テ受クル利益ニ関スル調査」、及び「最惠国待遇ニ依リ日本品ガ伊国ニ於テ受クル利益ニ関スル調査」各一部為御参考及御送付候也

追テ前記大藏省調査「日伊協定ニ依ル本邦關稅減收額調」ノ内税番第二四六号イ)麦稈真田ニ於テ日伊協定税目ニ依ル低率ハ六条裸麦製真田ノミニ限ラルル次第ナルモ伊国

統計ニ於テ六条裸麦製真田ト其ノ他麦稈真田トヲ区別セ  
五 日伊通商航海条約改締及暫定取極締結一件 二二三

第四八号

貴電第一三一号末段ニ関シ日独条約ニ基ク協定稅率ハ大正四年四月一日以後何レノ国ノ輸入品ニ對シテモ廢止シ居レリ(大正三年九月法律第四十三号参照)日墺條約ニハ稅率ノ協定ナシ同貴電前段ニ関シ伊国當局ノ語レルカ如ク同國ニ於テ仏、瑞西等トノ現行條約ヲ廢棄シ單ニ最惠國待遇ノ交換ニ止ムル場合ニハ日本品ハ伊国ニ於テ總テ高率ナル國定稅率ヲ受クルニ至ルニ反シ多數ノ伊国品ハ日本ニ於テ英仏トノ協定稅率ヲ受クルニ至リ不公平ナル結果ヲ見ルハ往電第四四号所載ノ通リナリ尚本件ニ関シ仏國瑞西等伊国トノ間ニ現ニ協定稅率ヲ有スル國ハ日本同様不利ナル結果ヲ見ルニ至ル次第ナルカ故ニ條約失効後ノ措置ニ対スル前記兩國ノ態度關係國大公使ニ付キ御探査ノ上回電アリタシ

二二三 一九一〇年七月二十八日改正現行伊國關稅法ニ關



ヴェルモット（輸入）（六四ノ内）										協定税率 （輸入）（六四ノ内）	
平價均格										明治 翌年	
不 計	北 米 合 衆 國	西 班 牙	匈 牙 利	地 利	獨 逸	佛 蘭 西	英 吉 利	伊 太 利	圓 リッ ト ル 圓	毎 百 リッ ト ル	毎 百 元
五百 三〇 三〇	二二					六、八、三 三、一〇、三 三、一〇、三	一〇、七、七 一〇、七、七 一〇、七、七	七、七、七 七、七、七 七、七、七	一〇、七、七 一〇、七、七 一〇、七、七	一〇、七、七 一〇、七、七 一〇、七、七	五百 三〇 三〇
五百 九〇 八〇						大、六、三 大、六、三 大、六、三	一、九、九 一、九、九 一、九、九	七、七、七 七、七、七 七、七、七	七、七、七 七、七、七 七、七、七	七、七、七 七、七、七 七、七、七	五百 九〇 八〇
一千、五 五、五 五、五	五五	三二				一、九、九 一、九、九 一、九、九	二、六、六 二、六、六 二、六、六	三、三、三 三、三、三 三、三、三	七、七、七 七、七、七 七、七、七	七、七、七 七、七、七 七、七、七	一千、五 五、五 五、五
五百 七〇 七〇						一、九、九 一、九、九 一、九、九	二、六、六 二、六、六 二、六、六	三、三、三 三、三、三 三、三、三	七、七、七 七、七、七 七、七、七	七、七、七 七、七、七 七、七、七	五百 七〇 七〇
五百 四〇 四〇						一、九、九 一、九、九 一、九、九	二、六、六 二、六、六 二、六、六	三、三、三 三、三、三 三、三、三	七、七、七 七、七、七 七、七、七	七、七、七 七、七、七 七、七、七	五百 四〇 四〇
五百 二〇 二〇						一、九、九 一、九、九 一、九、九	二、六、六 二、六、六 二、六、六	三、三、三 三、三、三 三、三、三	七、七、七 七、七、七 七、七、七	七、七、七 七、七、七 七、七、七	五百 二〇 二〇
五百 一〇 一〇						一、九、九 一、九、九 一、九、九	二、六、六 二、六、六 二、六、六	三、三、三 三、三、三 三、三、三	七、七、七 七、七、七 七、七、七	七、七、七 七、七、七 七、七、七	五百 一〇 一〇
五百 零〇 零〇						一、九、九 一、九、九 一、九、九	二、六、六 二、六、六 二、六、六	三、三、三 三、三、三 三、三、三	七、七、七 七、七、七 七、七、七	七、七、七 七、七、七 七、七、七	五百 零〇 零〇

五 日仏通商航海条約改締及暫定取扱締結一件 一一一

一九〇

計	伊太利	價平均	明治
西班牙	獨逸	リットル	四年
佛蘭西	英吉利	三八二	四年
伊太利	價平均	四〇〇	四年
西班牙	獨逸	六九六	四年
佛蘭西	英吉利	五七〇	元年
伊太利	價平均	四〇〇	元年
西班牙	獨逸	六九六	元年
佛蘭西	英吉利	五七〇	三年
伊太利	價平均	四〇〇	三年
西班牙	獨逸	六九六	三年
佛蘭西	英吉利	五七〇	五年
伊太利	價平均	四〇〇	五年
西班牙	獨逸	六九六	五年

計	伊太利	價平均	明治
西班牙	獨逸	リットル	四年
佛蘭西	英吉利	三九九	四年
伊太利	價平均	四〇〇	四年
西班牙	獨逸	六九六	四年
佛蘭西	英吉利	三九九	元年
伊太利	價平均	四〇〇	元年
西班牙	獨逸	六九六	元年
佛蘭西	英吉利	三九九	三年
伊太利	價平均	四〇〇	三年
西班牙	獨逸	六九六	三年
佛蘭西	英吉利	三九九	五年
伊太利	價平均	四〇〇	五年
西班牙	獨逸	六九六	五年

マルサラ（燶入）（六四ノ内）	協定税率	同	毎百リットル	明治
支那	伊太利	英國	リットル	四年
六九六	一、六九六	一、六九六	四〇〇	四年
六九六	一、六九六	一、六九六	四〇〇	元年
六九六	一、六九六	一、六九六	四〇〇	三年
六九六	一、六九六	一、六九六	四〇〇	五年

マルサラ（燶入）（六四ノ内）	協定税率	同	毎百リットル	明治
支那	伊太利	英國	リットル	四年
六九六	一、六九六	一、六九六	四〇〇	四年
六九六	一、六九六	一、六九六	四〇〇	元年
六九六	一、六九六	一、六九六	四〇〇	三年
六九六	一、六九六	一、六九六	四〇〇	五年

天然醸酵ノ葡萄酒（樽入）（六四ノ内）	協定税率	同	毎百リットル	明治
支那	伊太利	英國	リットル	四年
六九六	一、六九六	一、六九六	四〇〇	四年
六九六	一、六九六	一、六九六	四〇〇	元年
六九六	一、六九六	一、六九六	四〇〇	三年
六九六	一、六九六	一、六九六	四〇〇	五年

ア列布油（燶入及樽入）（九八ノ内）	協定税率	同	毎百斤	明治
支那	伊太利	英國	リットル	四年
七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	四年
七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	元年
七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	三年
七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	五年

柑橘属果實ヨリ製シタル揮発油（九五ノ内一ノ内）	協定税率	同	毎百リットル	明治
支那	伊太利	英國	リットル	四年
七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	四年
七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	元年
七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	三年
七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	五年

五  
日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件

酒石酸

瑞	獨	佛	英	伊	價
西	逸	蘭	吉利	太	平
		西		利	均
			圓	斤	每百斤圓
一	六	一	一、三、八、六、七	三、一、三	明治年
一	八	一	一、二、五、六、七	二、一、三	三十一年
一	三、九	一	一、二、五、六、七	一、三、四	三十一年
一	六、六	一	一、二、五、六、七	一、二、三	三十一年
			大正年		
一	四、八、五、一	一	大、五、三、二、一	一、三、四	大正年
一	三、三、七	一	大、五、三、二、一	一、三、四	大正年
一	六、八、七、六	一	大、五、三、二、一	一、三、四	大正年
一	九、五、一	一	大、五、三、二、一	一、三、四	大正年
一	三、九、五、三	一	大、五、三、二、一	一、三、四	大正年
一	七、五	一	大、五、三、二、一	一、三、四	大正年
			昭和年		
一	元、七、五	一	八、二、三、二、一	一、二、三	昭和年
一	元、七、五	一	八、二、三、二、一	一、二、三	昭和年
一	六、六、一	一	七、六、五、四、三	一、二、三	昭和年
一	三、四、一	一	七、六、五、四、三	一、二、三	昭和年
一	八、五	一	七、六、五、四、三	一、二、三	昭和年
			昭和年		
一	大、五、七、六	一	九、八、七、六、五	一、四、七、三	昭和年
一	六、六、一	一	九、八、七、六、五	一、四、七、三	昭和年
一	三、四、一	一	九、八、七、六、五	一、四、七、三	昭和年
一	八、五	一	九、八、七、六、五	一、四、七、三	昭和年

丙、三ノ内

國	瑞	獨	佛	英	伊	價
牙	西	逸	蘭	吉利	太利	均
利			西			格
						每百斤
						明治 年
						留年
						大正 年
						二年
						三年
						四年
						五年

丙、三ノ内)

獨逸	佛蘭西	英吉利	伊太利	價格均	平治年
				每百斤	明治三年
					昭和年
一七六	一七五	一七四	一七三	一七二	大正元年
一七七	一七六	一七五	一七四	一七三	三年
一七八	一七七	一七六	一七五	一七四	三年
一七九	一七八	一七七	一七六	一七五	四年
一八〇	一七九	一七八	一七七	一七六	五年
一八一	一八〇	一八一	一八二	一八三	六年
一八二	一八一	一八二	一八三	一八四	七年
一八三	一八二	一八三	一八四	一八五	八年
一八四	一八三	一八四	一八五	一八六	九年
一八五	一八四	一八五	一八六	一八七	十年
一八六	一八五	一八六	一八七	一八八	十一年
一八七	一八六	一八七	一八八	一八九	一二年
一八八	一八七	一八八	一八九	一九〇	十三年
一八九	一八八	一八九	一九〇	一九一	十四年
一九〇	一八九	一九〇	一九一	一九二	十五年
一九一	一九〇	一九一	一九二	一九三	十六年
一九二	一九一	一九二	一九三	一九四	十七年
一九三	一九二	一九三	一九四	一九五	十八年
一九四	一九三	一九四	一九五	一九六	十九年
一九五	一九四	一九五	一九六	一九七	二十年
一九六	一九五	一九六	一九七	一九八	二十一年
一九七	一九六	一九七	一九八	一九九	二十二年
一九八	一九七	一九八	一九九	二〇〇	二十三年
一九九	一九八	一九九	二〇〇	二〇一	二十四年
二〇〇	一九九	二〇〇	二〇一	二〇二	二十五年
二〇一	二〇〇	二〇一	二〇二	二〇三	二十六年
二〇二	二〇一	二〇二	二〇三	二〇四	二十七年
二〇三	二〇二	二〇三	二〇四	二〇五	二八年
二〇四	二〇三	二〇四	二〇五	二〇六	二九年
二〇五	二〇四	二〇五	二〇六	二〇七	三十一年
二〇六	二〇五	二〇六	二〇七	二〇八	三十二年
二〇七	二〇六	二〇七	二〇八	二〇九	三十三年
二〇八	二〇七	二〇八	二〇九	二一〇	三四年
二〇九	二〇八	二〇九	二一〇	二一〇	三五年
二一〇	二〇九	二一〇	二一〇	二一〇	三六年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	三七年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	三八年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	三九年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	四十一年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	四二年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	四三年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	四四年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	四五年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	四六年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	四七年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	四八年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	四九年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五一年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五二年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五三年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五四年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五五年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五六年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五七年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五八年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五九年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇〇年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇一年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇二年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇三年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇四年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇五年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇六年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇七年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇八年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇九年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇〇〇年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇〇一年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇〇二年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇〇三年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇〇四年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇〇五年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇〇六年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇〇七年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇〇八年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇〇九年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇〇〇〇年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇　〇　〇年
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	五〇　　　　〇〇年

毛織物 一平方メートルニ付五百グラムヲ超エサルモノ  
(三〇一ノ二甲ノ八)

フェルト帽子(三四四ノ内二、乙、一)

(三)○一ノ二乙ノ八 國定兌率 每百斤 三、五〇(一割五分)

瑞	獨	佛	英	伊	價	平
西	逸	蘭西	吉利	太利	格	均
					每百斤	明治年
						開年
					圓	大正年
					毛、至	年
					三三、八毛	二十年
					二二、四毛	十九年
					三六、三毛	十八年
					二一、三毛	十七年
					一四、五毛	十六年
					一六、七毛	十五年
					一八、九毛	十四年
					一六、一圆	十三年
					一四、六毛	十二年
					一四、九毛	十一年
					一三、三毛	十年
					一三、三毛	九年
					一三、三毛	八年
					一三、三毛	七年
					一三、三毛	六年
					一三、三毛	五年
					一三、三毛	四年
					一三、三毛	三年
					一三、三毛	二年
					一三、三毛	一年
					一三、三毛	半年
					一三、三毛	季
					一三、三毛	月
					一三、三毛	日

石絨塊粉織維 (四一八ノ一)	獨	佛蘭西	英吉利	伊太利	價格均	平	
	計	逸			圓斤	內每百斤共	明治年
九	三	一	七	一	一	一	四年
一、 塊	四		一、 五				四年
三、 塊	四	三	三、 六	一	一	一	大正元年
七、 塊	四	三	四、 七	一	一	一	三年
二、 塊	三	二	一、 三	一	一	一	三年
八	一	一	八	一	一	一	四年
一、 塊	一	一	一、 七	一	一	一	五年

價 格	平 均	伊 太 利	英 吉 利	佛 蘭 西	獨 逸	計	ア イ ボ リ ー ・ ナ ツ ト 鉄 鉱 (三 五 七 ノ 内 二 、 丁 ノ 内)
每打	明治 廿年						
圓打	昭年						
六、三圓	大正 元年	二三	一、五〇	四、六〇	一、一〇	三〇	三、一
一〇、七二	三年	六〇	九二	三一	三〇	三三	一、一〇
三、〇〇	三年	六〇	六〇	三一	一	三一	二、一〇
三、吾	四年	五二	五二	五二	一	五二	二、一〇
三、一〇〇	五年	五二	五二	五二	一	五二	二、一〇〇

英吉利	伊太利	價格	平均	每百斤	明治年
佛蘭西					
					西元年
					大正年
		圓 一、六、 元、公	三、 一、五、 〇、三	一、 〇、三、 〇、五	西元年
		一、八、 〇、六、 五	一、四、 〇、三、 五	一、 〇、三、 〇、五	三年
		三、 一、九、 六、九	三、 一、八、 二	一、 〇、六、 二	三年
		一、五、 一、五	一、七、 一、七	一、 〇、六、 六	四年
		一、三、 一、三	一、毛、 一、毛	一、 〇、七、 〇	五年



五 日伊通商航海條約改結及暫定取締結一件 一一一

一一〇

不詳		金側、白金側機中時計 (五二六ノ一)		國定稅率 每個		明治四年		大正元年		三年		四年	
元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一

不詳		明治四年		大正元年		三年		四年		五年		六年	
元〇、四〇四	六、七〇一												

不詳		明治四年		大正元年		三年		四年		五年		六年	
元〇、四〇四	六、七〇一												

自動車部分品 (五六三)		明治四年		大正元年		三年		四年		五年		六年	
元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一

自動車部分品 (五六四)		明治四年		大正元年		三年		四年		五年		六年	
元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一

瓦斯、石油、熱氣機関 (五七七)		明治四年		大正元年		三年		四年		五年		六年	
元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一

ウオーターラービン及ペルトン・ウェール (五七八)		明治四年		大正元年		三年		四年		五年		六年	
元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一	元〇、四〇四	六、七〇一

伊太利價平均		明治四年		大正元年		三年		四年		五年		六年	
元〇、四〇四	六、七〇一												

伊太利價平均		明治四年		大正元年		三年		四年		五年		六年	
元〇、四〇四	六、七〇一												

写真用フィルム（六三六ノ二）現象シタルモノ										不詳		
丁 抹	瑞 典	露 西 亞	和 蘭	匈 牙 利	墺 地 利	瑞 西	獨 逸	佛 蘭	英 吉利	伊 太 利	價 格 均	明治 四年
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	每斤	一六、九毛七
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	大正 元年	一五、三圆
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二年	一六、九毛五
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三年	一五、三圆
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四年	一五、九毛一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	五年	一五、九毛一

五 日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件

(附屬書二)

日伊協定ニ依ル本邦關稅減收額調										大正二年	
同										税目番号	
品名										単位	
天然醸酵ノ葡萄油 (樽入モノ)	其	其	其	罐	罐	罐	罐	罐	罐	品	名
	マル	サ	ラ(同)	入	シ	詰	詰	詰	詰	品	名
	他	他	他	入	ト	ノ	ノ	ノ	ノ	品	名
(純酒糟ノ容量 超エサルモニ超ト)	マ	セ	リ	ー	カロニ	ー	ア	カロニ	ー	品	名
(純酒糟ノ容量 超エサルモニ超ト)	ル	リ	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	品	名
	他	他	他	入	果	果	果	果	果	品	名
	入	入	入	入	実	実	実	実	实	品	名
リットル	リットル	リットル	リットル	リットル	リットル	リットル	リットル	リットル	リットル	リットル	リットル
一五・〇〇	三〇・〇〇	四〇・〇〇	三〇・〇〇	四〇・〇〇	七・九〇	四・〇〇	七・五〇	七・九〇	圆	國定	税率
五・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	六・〇〇	二・五〇	五・五〇	六・〇〇	圆	協定伊	率
一五、五〇	一五、五〇	一五、五〇	一五、五〇	一五、五〇	七、六〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	圆	輸入額	總輸入
七、五〇	一五、五〇	一五、五〇	一五、五〇	一五、五〇	七、六〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	圆	大正元年	國定依ル額
一六、三五	八	八	二二	三、一一〇	一、九〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	圆	協定伊	率
三、五五	一	一	一	三、〇〇	五、五〇	一、〇五	一、〇五	一、〇五	圆	輸入額	國定依ル率
三、七三	一	一	一	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	圆	大正元年	國定依ル率
一九	一	一	一	一、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	圆	協定伊	率
毛七	一	一	一	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	圆	輸入額	國定依ル率

五  
日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件

二〇六

日伊協定ニ依ル本邦關稅減收額調									
同									
税目番号									品名
六四									單位
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
天然醸酵ノ葡萄油 (樽入モノ)	其 他	罐 マ ル サ ラ (同)	其 他	罐 シ ト ロ ン	罐 詰 ノ 果 実	罐 詰 ノ 蔬 菜	罐 詰 ノ 蔬 菜	罐 詰 ノ 蔬 菜	品名
リットル 毎百 リットル	リットル 毎百 リットル	リットル 毎百 リットル	リットル 毎百 リットル	リットル 毎百 リットル	リットル 毎百 リットル	リットル 毎百 リットル	リットル 毎百 リットル	リットル 毎百 リットル	單位
一五・〇〇 圓	三〇・〇〇 圓	四〇・〇〇 圓	三〇・〇〇 圓	四〇・〇〇 圓	七・九〇 圓	七・九〇 圓	七・九〇 圓	七・九〇 圓	國定
一五・〇〇 圓	一〇・〇〇 圓	一一・〇〇 圓	一〇・〇〇 圓	一一・〇〇 圓	六・〇〇 圓	二・五〇 圓	五・〇〇 圓	六・〇〇 圓	協定伊
一五・〇〇 圓	一一・四〇 圓	一二・四〇 圓	一一・四〇 圓	一二・四〇 圓	五・〇〇 圓	三・五〇 圓	三・五〇 圓	六・〇〇 圓	大正二年
一三・一七 圓	一三 一三	一三 一三	一三 一三	一三 一三	三・五〇 圓	一・一〇 圓	一・一〇 圓	一・一〇 圓	國定率
一四・一四 圓	一三 一三	一三 一三	一三 一三	一三 一三	二・八〇 圓	一・〇 圓	一・〇 圓	一・〇 圓	協定率
三・四七 圓	一 一	一 一	一 一	一 一	三・一〇 圓	一・三〇 圓	一・三〇 圓	一・三〇 圓	差額
三・三三 圓	一 一	一 一	一 一	一 一	一・三〇 圓	八・五〇 圓	八・五〇 圓	八・五〇 圓	輸入
一七 圓	一 一	一 一	一 一	一 一	七・九〇 圓	一・七〇 圓	一・七〇 圓	一・七〇 圓	伊國ヨリ輸入

五 日伊通商航海條約改縮及暫定取極縮結一件

(附屬書四)

邦貨換算		計 〔國定ト日伊協定比較〕	四五五 日本漆ヲ塗リタル紙 製品及板紙製品	二五六 一製帽用ノモノ
口精ナルモノ	イ尋常ノモノ	ノタル紙製又ハ竹骨ヲ用キ扇子及團扇	竹製又ハ竹骨ヲ用キ扇子及團扇	ノタル紙製又ハ布帛製
" "	" "	" "	" "	" "
一五〇	一七〇	一五〇	一七〇	一七〇
リレ	リレ	一〇〇	一〇〇	一〇〇
五、七八、六六〇	五、七八、六六〇	五、七八、六六〇	五、七八、六六〇	六、〇〇〇
三七〇、七四〇	三七〇、七四〇	三七〇、七四〇	三七〇、七四〇	一、六〇〇
元九、一四〇	元九、一四〇	元九、一四〇	元九、一四〇	一、〇〇〇
三九〇、五四〇	三九〇、五四〇	三九〇、五四〇	三九〇、五四〇	六、〇〇〇
四九〇、五四〇	四九〇、五四〇	四九〇、五四〇	四九〇、五四〇	一、六〇〇
四九〇、五四〇	四九〇、五四〇	四九〇、五四〇	四九〇、五四〇	一、〇〇〇
三七〇、七四〇	三七〇、七四〇	三七〇、七四〇	三七〇、七四〇	六〇〇
二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	一、六〇〇
二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	一、〇〇〇
二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	六〇〇
二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	一、六〇〇
二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	一、〇〇〇
二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	二七〇、七四〇	六〇〇

備考

羽二重其他之二類似ノ織物

本品ハ邦ヨリノミ輸入スルモノト看做シ又邦ヨリ伊國ヘ輸入ノ平綿糸ヲ總テ本品ト看做シ計算セリ  
羽二重製ノ手巾・肩掛・襟巻其他加縫品

本品ハ本邦ヨリノミ輸入スルモノト

日本漆アセナリタル家具及其ノ部分品  
木製紙貨、紙製品及板紙製品  
木製、紙製、板紙、漆、漆器、漆工、漆工事、漆工業、漆工場、漆工場所、漆工場所等

本品日本井三ノミ轉入フルモト看做シ又本邦三リ伊國へ轉入ノモノノ織テ清ラ満リタルモノト看做セリ

總テ輸入額ニハ支那ヨツノ輸入額ヲ合算セリ

眞田

經木製ノモノハエスパルト製等ト共ニ統計シアルヲ以テ本邦以外ノ國ヨリ輸入ノモノハ其ノ半數ヲ經木製ト看做セリ

竹製又ハ竹骨ヲ用ヰタル紙製若ハ布

本邦ヨリ輸入ノモノハ總テ竹ヲ用キタルモノト看做シ又本邦以外ノ國ヨリハ輸入ナキモノト看做セリ（支那ヨリ輸入ナン）

五 日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件

(附屬書五)

最惠国待遇ニ依リ伊国品カ本邦ニ於テ受クル利益（大正元年）（本邦貿易統計ニ依ル）

邦 貨 換 算	計	四五五	二五六
	(國定ト日伊協定トノ比較 國定又ハ他ノ協定ト日伊協定トノ比較)	日本漆ヲ塗リタル紙 製品及板紙製品 竹製及竹骨ヲ用キタ ル紙製又ハ布帛製ノ 扇子及團扇	一 製帽用ノモノ
	口、精ナルモノ	イ、尋常ノモノ	" "
	" "	" "	" "
	一〇〇九〇	一〇〇九〇	吉合
	リレ	六、三九、九〇	六、九〇
	八、九、一五〇	西、空、七語	一、六〇
	三一、一、置算	六、六、置算、真美	一、一、吾〇
	四、五〇圓	八、六、三三、一圓	六九〇
	五、九〇、吾六	三〇、一圓	" "
	六、八、吾五	三、空、七語	一、六〇
	六、九〇	三、空、七語	一、一、吾〇
	六、三三、一圓	六、四三	六九〇
	六、九〇	六、四三	六九〇
	六、三三、一圓	三〇、一圓	六九〇
	六、九〇	三、空、七語	一、六〇
	六、三三、一圓	三、空、七語	一、一、吾〇
	六、九〇	三、空、七語	一、一、吾〇
	六、三三、一圓	三〇、一圓	六九〇

備考 一九二二年ノ分ニ同シ

		番 稅 號 目	
		品 名	
		單 位	
六 四	五 二	五 一	四 割
甲 鰻 入 ノ モ ノ	天 然 醇 酒 葡 萄 酒	鮪 油 漬	(佛) 二 割
ル百 リット	百 斤	從 價	國 定 索
四・〇	元・〇〇	四 割	國 定 索
(〃)	(〃)	(佛)	協 定 索
五・〇	二毛・〇〇圓	二 割	協 定 索
圓 リットル	" "	圓 斤	伊 國 ヨリ 輸入額
一、六六	三毛・〇〇	一	大 正 元 年
七	一	圓	
五	七	圓	國 定 索 依
三六	壹	圓	國 定 索 依
九五	七	圓	協 定 索 依
八九	壹	圓	協 定 索 依
九五	六	圓	差 額



五 日伊通商航海條約改締及暫定取締締結一件

五

日伊協定率ト他ノ協定率ト  
同一ノモノ (○印ノモノ)  
日伊協定ト同一ノモノ  
日佛協定ト同一ノモノ  
内計

最惠国待遇ニ依リ伊国品カ本邦ニ於テ受クル利益

THE JOURNAL OF CLIMATE

番号	税目	品名	単位	税率	大正二年	伊国ヨリ輸入額	ル關稅額	協定率ニ依
○	○	天然然醸入ノモノ他 (酒精ノ容量十四ラ超エサルモノ) (エサルモノノ容量十四ラ超エニ二十四ラ超ト)	百斤 リットル	元六圓 (佛)	元六圓 (佛)	元六圓 (佛)	元六圓 (佛)	元六圓 (佛)
甲鑑入ノモノ	六四	甲鑑入ノモノ他 (酒精ノ容量十四ラ超エサルモノ) (エサルモノノ容量十四ラ超エニ二十四ラ超ト)	百斤 リットル	元六圓 (佛)	元六圓 (佛)	元六圓 (佛)	元六圓 (佛)	元六圓 (佛)
三、四、五	五三	三、四、五	圆斤 リットル	二元六圓 二元六圓	二元六圓 二元六圓	二元六圓 二元六圓	二元六圓 二元六圓	二元六圓 二元六圓
三、六、七	三四	三、六、七	圆斤 リットル	二元六圓 二元六圓	二元六圓 二元六圓	二元六圓 二元六圓	二元六圓 二元六圓	二元六圓 二元六圓
一七、一八	一二	一七、一八	圆斤 リットル	一元六圓 一元六圓	一元六圓 一元六圓	一元六圓 一元六圓	一元六圓 一元六圓	一元六圓 一元六圓
六、四、五	一六	六、四、五	圆斤 リットル	一元六圓 一元六圓	一元六圓 一元六圓	一元六圓 一元六圓	一元六圓 一元六圓	一元六圓 一元六圓

五 日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件

三

五 日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件 二二二

(附屬書六)

最惠国待遇ニ依リ日本品カ伊国ニ於テ受クル利益（大正元年）（伊國貿易表ニ依ル）

五 日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件

五 日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件  
一一一

五  
由伊通商航海條約改編及暫定取極縮結  
——件

五 日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件 二二二

三五三  
印刷物、石版印刷物又廣告

備考

一、○印ヲ附シタルモノハ日伊協定率ト他ノ協定率ト同一ノモノナリ  
一、伊國ト独澳両國トノ協定ヲモ掲ク協定國ノ判明セサル場合ニハ國名ヲ掲ケス  
一、トリムミングノ國定率ハ織物（ブレーン）ノ税率八リレト同一ナルモノト看做シ之ニ三リレヲ加へ計算セリ  
一、縫ヒタル絹製品中ノ手巾類ノ國定率ハ織物（ブレーン）ノ税率八リレト同一ナルモノト看做シ之ニ五割ヲ加へ協定率ハ貿易表ノ  
関稅收入額ヨリ計算スルトキハ一キロニ付約五、四〇二ニ当ルヲ以テ織物ノ協定率四、五〇ニ二割ヲ加へ計算セリ又衣類及其ノ他

五 日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件

— 1 —

五 日伊通商航海條約啟締及暫定双極締結一件 三三

五 日傳道而懶治教。緣已無力。嘗取極經。一傳

貿易表ノ關稅收入額ヨリ計算スルトキハ一キロニ付(其ノ他一、ナ、七五  
織物ノ税率ニ五割)ハ協定ニ比列ニテ計算ニリ

（ヲ加ヘタルモノ）ハ協定率ノ比例ニテ言算セリ

入スル綱織物ハ總テ第三國トノ協定ニ均霑スルモノシテ計算セリ

最惠國待遇ニ依リ日本品カ伊国ニ於テ受クル利益  
(大正二年) (伊国貿易表ニ依ル)

一九三四年十二月

五 日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件 二二二

二三四

四五六八	四六四	糺子飾	セサル	特掲セサル樂器
換差換	換	(麥稈椰子纖維經木 ニテ製シタルモノ)		
日伊協定率ト他ノ協定率ト 同一ノモノ(印ノモノ)	内	計		
換算引算	算			
			個	二
			個	一
			(瑞西)	一、五〇
			〇、三五	一、五〇
リレ	リレ	リレ	リレ	リレ
二、二九、三九	一、九八、七三	四、〇九八、二三	二七、六六	五、一九〇
三三、一三〇	三九、八四	四〇、一四	二七、六六	五、一九〇
一五、二〇〇	一九、八〇	二七、〇三	六、九三	五九
圆	圆	圆	圆	充
三五、九四	三七、九四	三七、九四	一〇、九六	一七
六、七五	六、七五	六、七五	六、九三	五九
七〇、〇四	七〇、〇四	七〇、〇四	一七、九六	一七
五、九四	五、九四	五、九四	一七、九六	一七

一、縫ヒタル絹製品中衣類及其ノ他ノ協定率ハ一キロニ付(衣類其ノ他一二、〇九)トシ国定率ハ其ノ比例ニ依ル其ノ他千九百十二年ノ備考ニ  
同シ

二二三 十月二十八日 本野外務大臣宛(電報) 在伊国伊集院大使ヨリ

伊国ガ各国ト締結セントスル通商暫定取極ノ  
内容二関スル件

四庫全書

貴電第四八号ニ関シ伊国大藏省当局希望ノ趣旨ハ諸國トノ現行条約及協定税率ヲ其保存統スルコトヲ約シ且単純ナル

五 日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件 二二三

最患國条款ヲ含メル暫定取極ヲ各國ト一律ニ取結ヒ明年一月ヨリ同時ニ有効ナラシメントスルニ在リ貴電御懸念ノ如キ不都合ヲ生スルコトナカルヘシト思料セラル從テ我提議ト伊国側希望トノ差違ハ伊国ニ於テハ各國トノ旧条約ヲ一律同時ニ継続スルモノナルニ付日伊暫定取極中ニ特別ナル

最惠国条款ヲ含メル暫定取極ヲ各国ト一律ニ取結ヒ明年一月ヨリ同時ニ有効ナラシメントスルニ在リ貴電御懸念ノ如

テ更ニ研究電報スヘシ

一一四 十一月十四日

本野外務大臣ヨリ  
在伊国伊集院大使宛

日伊通商条約改正準備資料トシテ一九〇五年

十二月乃至一九一一年八月間締結ノ伊国条約

集送付方訓令ノ件

通送第五〇号

日伊条約改正準備書類ニ関スル件

日伊通商条約集送付ニ關スル九月二十日附公第八三号貴信

閲悉右ニ依レバ當方ヨリ依頼ニ係ル一九〇五年十二月乃至一九一一年八月ノ間ニ締結セル伊国条約ハ本年一月八日附機密第二号貴信ニテ御送付相成タル大蔵省条約集ニ掲載有之候様御申越相成候ヘ共當方ニテ接受セル右大蔵省条約集ハ追加第一巻(appendice 1.)ノミニ有之該書中ニハ一九一一年九月以前締結ノ条約ハ更ニ掲載無之或ハ貴信御申越シノ一九一一年九月現在伊国条約集ナルモノハ大蔵省ヨリ右追加ノ本書トシテ別ニ發行セラレ居ルモノカトモ思考セラレ候就テハ本点更ニ御取調ノ上前記一九一一年九月伊国条約集又ハ一九〇五年十二月以降一九一一年八月迄ノ条約

ヲ印刷セル何等カノ出版物御送付方御取計相成度此段重ネテ申進候也

一一五 十一月二十七日 在伊国伊集院大使宛(電報)

伊国政府ヨリ現行日伊通商条約ノ効力ヲ一年

間延長ヲ提案ニ付請訓ノ件

第一六九号

往電第一三一号ニ關シ外務大臣ヨリ十一月二十六日付ニテ左ノ通り回答アリ

十月十日付貴翰ニ対シ伊国政府ハ目下新条約締結ノ好時期ニアラザルヲ以テ両國間ノ現状(Status quo)維持ニ關シ伊国政府ハ帝国政府ト全然同意見ナリ然レドモ貴翰ヲ以テ御申越ノ提案ヲ承知スルニ先チ既ニ伊国政府ハ条約及關稅委員会ノ意見ニ從ヒ來年一杯即チ一九一九年一月一日ニ至ル迄通商条約ノ單純ナル(Pure et simple)延長ヲ關係各國ヘ提議スルニ決定シタリ而シテ此ノ決定ハ既ニ諸国政府ヘ通知シタルモノナルヲ以テ之ヲ変改スルコト困難ナリ蓋若シ之ニ一例外ヲ認ムトセンカ遂ニハ他ノ幾多ノ例外ヲ認諾セザルヲ得サルニ至ルヘキヤモ測ラレズ來年中ニ新条約

ノ商議ヲ完了スル能ハザル場合ニハ伊国政府ハ両國通商關係ノ阻止サルヲ避クルガ為第二次ノ現状延長ニ付何時ニ

テモ帝國政府トノ協議ニ応ズベシ(一九一九年一月一日ニ至ル迄最惠國約款ニ依リ)日本及伊國双方ニ於テ其第三國トノ条約ニ依ル總テノ利益ハ其價之ヲ均霑スヘキコト勿論ナリ右第三國トノ条約ト曰フ内ニハ既ニ効力ヲ失ヒタルモノアルモ完全ナル相互主義ノ条件ノ下ニ敵國即チ独塙トノ条約ヲ含ム帝國政府ニ於テ以上ノ条件ヲ以テ現行条約ノ延長ニ同意セラルヘキヤ成ルベク速ニ御開示煩シ度シ

私見ニテハ右伊國政府ノ提案(脱)帝國政府ノ所見ト同一ト認メラルニ付各条約国ガ本提議ニ応スルコトヲ条件トシテ帝國政府モ伊國政府ノ提議ニ同意シ然ルベキヤニ認ム尚帝國ト独逸トノ条約ハ既ニ失効シ居ルヲ以テ(相互主義ノ条件ニ依リ)帝國ハ伊國內ニ於テハ独伊条約ニ均霑シ得ザルハ已ムヲ得ズト認ム右ニ関シ至急何分ノ御回電アリタシ

二付至急協定方回訓ノ件

第六一號

貴電第一六九号ニ關シ拙電第四四号ノ趣旨ハ要スルニ現行日伊通商条約ノ Pure et simple ノ延長即チ最惠國待遇及日伊協定稅目ヲ存続セシムルニ在リテ伊國條約關稅委員会ノ意見ト一致スルカ故ニ閣下ハ速ニ伊國當局トノ間ニ交換スヘキ公文案ニツキ協定ヲ遂ケラレ其ノ結果電報アリタシ尤モ貴電第一二五号別電第二項ハ伊國ヲシテ片務的ニ本邦品ニ對シ現行待遇ヲ存續セシムルコトヲ約セシムルニ在リテ到底伊國ノ承諾スルヲ難シトスルモノナリト思考セラルニ付伊國ニ於テ諸外國トノ間ニ有スル協定稅率ヲ存続スヘキ形勢ナルニ鑑ミ此際之ヲ撤回セラレ度シ貴電第一六九号末段ニ關シ帝國ニ於テハ現ニ獨逸トノ協定稅率ヲ伊國ニ他何レノ國ニ對シテモ失効セシメ居リ何等伊國ニ對シ區別待遇ヲ与ヘ居ラサル次第ナルニツキ前記暫定取極締結後ト雖伊國品ハ依然右日獨協定ノ利益ヲ享ケ得サルハ勿論ナルモ伊國ニ於テ若シ獨逸トノ協定稅率ヲ英仏品等ニ繼續スル以上日本品モ亦當然最惠國条款ニ依リ伊國ニ於テ右英仏品ニ均霑シ自然獨逸トノ協定稅率ノ適用ヲ享ケル事ナルヘ

一一六 十一月三十日 本野外務大臣ヨリ  
在伊国伊集院大使宛(電報)  
現行日伊通商条約一年間延長ノ伊国政府提案

五 日伊通商航海条約改締及暫定取極締結一件 一二六 一二七

キニ付公文交換ノ際本点誤解ナキ様取計ハレタシ將又伊国

政府ハ其公文ニ於テ完全ナル相互主義ヲ採用スヘキヲ主張シ居ル由ナルモ英仏ハ元來独塙トノ間ニ協定税率ヲ有セス露国モ亦一昨年五月以来敵國トノ協定税率ヲ全廢シタルカ

故ニ伊国ニ於テ本件ニ関シ所謂相互主義ヲ採ル事事実不可能ナリト思考セラルカ故ニ本邦ニ対シテモ本点ニ対スル伊国ノ主張ハ撤回セシメラレタシ

尚暫定取極案成立後ハ之カ調印ノ訓令ヲ与フルニ先チ當方ニ於ケル手続上多少手間取ルヤモ計ラレサルニツキ其御舍ニテ至急本件協定ヲ了フル様御措置アリタシ右為念

二二七 十二月十八日 本野外務大臣ヨリ 在伊国伊集院大使宛(電報)

日伊通商暫定取極督促ノ件

第六六号

時日切迫セル次第ニ付往電第六一号ニ關シ何分ノ儀折返シ御回電アリタシ

二二八 十二月十九日 在伊国伊集院大使ヨリ 本野外務大臣宛(電報)

日伊通商暫定取極ニ關シ伊国側ヲ督促ノ件

「ノース」ヲ与ヘタリ)ニテ残レルハ仏國、希臘及露西亞ノミナルカ仏國ハ戰時中現行條約ノ延長ヲ申出テ居リ伊国ハ一年延長ヲ望ミ居ルモ右ハ形式上ノ問題ナレハ不日解決スル筈ナリトノコトナリ

右ニ付明日中ニ公信接受次第交換「ノート」ノ案文其他ヲ直ニ電報スヘシ

二二九 十二月二十日 在伊国伊集院大使ヨリ 本野外務大臣宛(電報)

現行日伊通商條約ヲ一年間延長ニ關スル日伊

交換公文案伊国政府ヨリ呈示ノ件

別 電一 同日伊集院大使発本野外務大臣宛第一

八八号

伊国外務大臣ヨリ伊集院大使宛公文案

二 同日伊集院大使発本野外務大臣宛第一

八九号

伊集院大使ヨリ伊国外務大臣宛回答文案

第一八七号

往電第一八五号ニ関シ

伊国政府ヨリ二十日附左ノ訳文回答ニ接セリ

本月四日附貴信(貴電第六一号ノ通告ヲ指ス)ニ依リ貴国

五 日伊通商航海条約改締及暫定取極締結一件 二二九

貴電第六六号ノ件ハ屢々督促セルカ我提議ニ対シテハ外務省限りニテ決答スルヲ得ス他ノ條約委員ノ協議ヲ要シ且外務大臣モ近頃ノ政変ニテ非常ニ取込ミ居リ已ムヲ得ス回答

遲延セシ次第ナルカ今十九日更ニ館員ヲ外務省及大藏省ニ送リ督促セシメタル処伊国條約改正関税委員ノ一人タル大藏省(不明)局長ノ意見ハ全然我提議ニ同意ノ旨本月九日外務省ニ回答済ノ処他ノ委員ノ商務省商務局長ノ回答未着

ノ為今尚正式ノ回答ナカリシ實情ノ処外務省ニテハ商務省ト電話ニテ意見ヲ聞糺シタル末漸ク大藏省案ノ通ニ決定シ正式ニ公文及交換スヘキ「ノート」ノ原文ヲ明日中ニ送付ノ約束ヲ了セリ

右「ノート」ノ原稿ヲ一覽シタル館員ノ報告ニ依レハ伊国ハ帝國ト単純ナル現條約ヲ一ヶ年間ノ延長ヲ約スルト同時ニ獨塙両國トノ協定税率ハ第三國カ均霑スル限リ日本モ亦伊国内ニ於テ均霑スヘキ旨記シアリ

目下暫定條約締結ミノ國ハ破棄ヲ予告セル九ヶ國ノ内瑞西、塞爾比、羅馬尼、西班牙、伯刺西爾(同國ハ手續上議會ノ協賛ヲ要スルモ政府ハ條約ノ繼續ニ同意ノ「アシュラ

目下暫定條約取極ノ基礎トシテ十一月二十六日拙信(往電第一六九号ヲ指ス)ヲ承諾セラル旨拝承セリ  
右關係國中ノ四箇國(其後塞爾比承諾シ五箇國トナレルコト往電第一八五号ノ通)ハ何等ノ補足又ハ留保ナクシテ現行條約ヲ繼續スルコトヲ適當ト認メ該條約ノ単純(Pure et simple)ナル延長ニ同意セルモ他ノ各國ハ如何ナル条件ノ下ニ我提議ヲ承認スルヤハ予見スルコト不可能ナリ  
貴國政府ハ條約延長ニ際シ伊国ト敵國トノ間ニ締結セラレコトノ保証ヲ求メラル御希望アルコトヲ了承ス  
貴信ニ依レバ貴國政府ハ同一ノ保証ヲ与フルコト能ハザル由ナルモ伊国政府ハ相互條件ヲ離レ右保証ヲ与フルコトヲ承認ス  
右ニ付将来條約延長ニ關スル「ノート」ノ原文(別電第一)  
ヲ茲ニ添附スルニ付右原文ガ帝国政府ノ贊同セラル処ナルヤフ承知シ度ク同時ニ帝国政府回答文ノ原案ヲ前以テ示サレ度シ

五 日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件 一一〇

右回答文原案帝国政府ノ承認ヲ条件シテ伊國政府ノ内承  
認ヲ経タルモノ別電第一ノ通

尚右公文原文写ハ追テ郵送ス

(示 電 I)

十一月二十日伊集院大使発本野外務大臣宛電報第一八八号

伊国外務大臣ヨリ伊集院大使宛公文案

No. 188.

Betsuden 1.

Le Gouvernement Royal d'Italie et le Gouvernement Impérial du Japon ayant mutuellement constaté leur intention de prolonger le Traité de Commerce Italo-Japonais du 25 novembre 1912 pour toute l'année prochaine, j'ai l'honneur de communiquer à Votre Excellence que le Gouvernement du Roi s'engage à maintenir en vigueur toutes les clauses du traité susdit avec les tarifs y annexés, jusqu'au ler janvier 1919, en appliquant en même temps aux marchandises japonaises importées dans le Royaume le traitement stipulé par l'Italie dans ses traités—qui ont cessé d'être exécutoires—with l'Allemagne et l'Autriche-Hongrie, autant que ce même traitement sera appliqué aux marchandises d'autres pays.



Ijuin

(示 電 II)

十一月二十日伊集院大使発本野外務大臣宛電報第一八九号

伊集院大使ヨリ伊国外務大臣宛回答ノ公文案

No. 189.

Betsuden 2.

En réponse à la Note de Votre Excellence en date de ce jour, je suis autorisé par mon Gouvernement à Lui communiquer que le Gouvernement Impérial du Japon et le Gouvernement Royal d'Italie ayant mutuellement constaté leur intention de prolonger le Traité de Commerce entre le Japon et l'Italie du 25 novembre 1912 pour toute l'année prochaine, le Gouvernement Impérial s'engage à maintenir en vigueur jusqu'au ler janvier 1919 toutes les clauses du Traité susdit avec les tarifs y annexés.

Je saisis cette occasion etc.

Ijuin

一一〇 十一月二十日 本野外務大臣ヨリ  
寺内内閣總理大臣宛

日伊通商暫定取極締結方ニ關ハ閣議申請一件

(附屬書 I) 伊國伊集院大使ヨリ伊國伊集院大使宛

公文案

II 在伊國伊集院大使ヨリ伊國伊集院大使宛  
回答公文案

通機密送第一七八号

謹 本書ハ次ニ採録セル附屬書「」ノ外其ノ佛文公文案ヲ  
添附シアルモ省略ス（前掲伊集院大使來電第一八八号及第  
一八九号参照）

(附屬書 I)

伊国外務大臣ヨリ在伊國伊集院大使宛公文案

以書翰致啓上候陳者伊太利王國政府及日本帝國政府ハ千九百十二年十一月二十五日附伊日通商航海條約ヲ明年満一年間延期セムトノ意思ヲ相互ニ表明シタルニ付王國政府ハ同條約ノ各條項及附屬税表ヲシテ一千九百十九年一月一日ニ至ル迄ノ間効力ヲ存續セシムルコトヲ約シ既ニ効力ヲ失ヒタル伊太利國ト獨逸及墺地利洪牙利トノ條約ヲ以テ定メタル王國內輸入商品ノ待遇ヲ仍ホ他國商品ニ適用スル限り日本ヨリ輸入ノ商品ニ付テモ同一ノ待遇ヲ適用スヘキ旨茲ニ閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候就テハ閣下ヨリモ貴帝國政府ノ名ニ於テ同様ノ通告ヲ本大臣ニ與ヘラレ候様致度右申進旁々本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具  
(附屬書 II)

在伊國伊集院大使ヨリ伊國伊集院大使宛回答公文案

クモ本月二十五日中ニ右承認電訓方取計度候条右承認方電訓ニ  
關シ至急閣議決定相成度此段及請議候也

五 日伊通商航海條約改締及暫定取極締結一件 一一〇

Je prie Votre Excellence de bien vouloir me faire parvenir une communication analogue au nom du Gouvernement Impérial.

Agreeez etc.

一一一

五 日伊通商航海条約改締及暫定取極締結一件 二三一 二三二

二三一

王國政府ハ千九百十二年十一月二十五日附日伊通商航海條約ヲ明年滿一年間延期セムトノ意思ヲ相互ニ表明シタルニ付帝國政府ハ同條約ノ各條項及附屬税表ヲシテ千九百十九年一月一日ニ至ル迄ノ間効力ヲ存續セシムルコトヲ約スル旨閣下ニ通告方本使ニ於テ本國政府ノ訓令ニ相接シ候右申進旁々本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

二三一 十二月二十四日 勝田大藏大臣及仲小路農商務大臣各宛  
本野外務大臣ヨリ  
日伊通商暫定取極締結方ニ閑シ閣議申請シタ

既ニ暫定取極締結済ノ國ハ瑞西、塞爾比亞、羅馬尼亞、西班牙及伯刺西爾ノ五ヶ國ニシテ未タ締結ニ至ラサルモノハ仏蘭西、希臘、露西亞及日本ノ四ヶ國ニ有之其中仏國ニ閑シテハ伊國カ一ヶ年延期ヲ申出デ居ルニ対シ仏國ハ戦時中ニ限り現行条約ヲ延期スルコトヲ望ミ居ルモ右ハ形式上ノ問題ニ外ナラサルカ故ニ不日解決スヘシトノコトニ有之候右為念申添候也

註 別紙日伊通商暫定取極案日仏兩文前出ニ付省略ス

通機密合送第四二六号

大正六年十二月二十四日

現行日伊通商航海条約ヲ追テ新条約ノ締結ニ至ル迄効力ヲ

存続セシムル為メ暫定取極ヲ為スノ件ニ閑シテハ曩ニ本年九月中閣議決定ノ趣旨ニ依リ在伊帝国大使ヲシテ伊国政府ニ交渉セシメタル結果両国政府間ニ帝国政府ノ希望セル通

リ別紙公文案案ヲ交換スルコトニ協議済ト為リタル趣ヲ以テ今般同大使ヨリ右ニ閑スル承認方電請ノ次第有之候間右承

認方電訓ニ閑シ本月廿二日附ヲ以テ及閣議申請置候条右様御承知相成度此段及照会候也

追テ伊國ニ於テ通商航海条約ノ破棄ヲ予告セル九ヶ國中

既ニ暫定取極締結済ノ國ハ瑞西、塞爾比亞、羅馬尼亞、

西班牙及伯刺西爾ノ五ヶ國ニシテ未タ締結ニ至ラサルモノハ仏蘭西、希臘、露西亞及日本ノ四ヶ國ニ有之其中仏

國ニ閑シテハ伊國カ一ヶ年延期ヲ申出デ居ルニ対シ仏國ハ戦時中ニ限り現行条約ヲ延期スルコトヲ望ミ居ルモ右

ハ形式上ノ問題ニ外ナラサルカ故ニ不日解決スヘシトノコトニ有之候右為念申添候也

ル旨通報ノ件

日伊通商暫定取極締結方ニ閑シ閣議申請シタ

註 別紙日伊通商暫定取極案日仏兩文前出ニ付省略ス

二三二 十二月二十四日 市来大藏次官宛

日伊通商暫定取極締結交渉ニ閑シ照会ノ件

往第一二三七号

(十二月二十五日接受)

大正六年十二月廿四日

外務次官 勝田内閣書記官長

大藏次官 市来大蔵次官

乙彦(印)

暫定取極ヲ以テ新条約実施ノ時迄現行日伊通商航海条約ヲ

存続セシムル件ニ閑シ客月十五日附往第一〇八二八号ヲ以テ及御回答置候処右ニ閑シ伊国政府ト御交渉ノ経過如何ニ候哉日伊協定税率ノ適用上必要有之且条約失効期限モ本月末ニ切迫致居候ニ付至急何分ノ義承知致度此段及照会候也

二三三 十二月二十五日 勝田内閣書記官長(印)  
市来大蔵次官宛

二三四 十二月二十五日 勝田内閣書記官長(印)  
市来大蔵次官宛

日伊通商暫定取極ニ閑シ枢密院會議開催ノ件

内閣外甲第一五九号

大正六年十二月二十五日

児玉内閣書記官長(印)

通牒

弊原外務次官殿

本件ニ閑シ本月廿四日付往電第一二三七七号ヲ以テ御申越

ノ趣了承現行日伊通商航海条約ヲ向フ一年間延期スルコト

ニ在伊帝国大使ト伊国政府トノ間ニ協定済ト為リタル趣ヲ

以テ同大使ヨリ右ニ閑スル承認方電請越シタルニ付右承認

方ニ閑シ及閣議申請置タル次第ハ貴省大臣宛通機密合送第

四二六号ヲ以テ申進置キタル通リニ有之候処右締結方ニ就

テハ更ニ明廿六日枢密院御諮詢済ノ上同大使ヘ電訓可致コ

トト相成居候ニ付右ニ御含ノ上可然御取計相成度此段回答

申進候也

追而在伊帝国大使ヘ暫定取極調印方訓令ノ連ニ至リ候節其旨至急御通報可致候

五 日伊通商航海条約改締及暫定取極締結一件 二三三 二三四

二三三

大正元年十一月締結ノ現行日伊通商航海条約ハ其終期ヲ同条約第二十一条ヲ以テ本年末日トセシトコロ伊国政府ヨリ右条約規定ニ基キ客年十二月中本年十二月末日ヲ以テ該条約ヲ終了セシムヘキ旨ヲ公然通告シ來レリ(大正五年十二月二十九日附外務省告示第一八号)

二三四

依テ爾來帝国政府ニ於テハ現行日伊條約ニ代ルヘキ新條約締結ノ趣旨ヲ以テ調査スルトコロアリタルモ現ニ戰爭ニ基ク経済事体不定ニシテ確定條約ヲ締結スルニ便ナラサルカ為去九月中新條約ノ締結ヲ後日二期スルト共ニ不取敢現行日伊條約ヲ明年中一ヶ年間延期スヘキ趣旨ノ暫定取極ヲ両國間ニ締結スヘキコトニ閣議決定シ右交渉方在伊大使ニ訓令スルトコロアリ爾來同大使ニ於テ伊国政府當局者ト商議ヲ重ネタル結果漸ク帝国政府ノ希望通り伊国政府ノ承諾ヲ得別記公文案ヲ交換スルコトニ協議纏リタル趣ヲ以テ

本月二十二日右調印方ニ関シ請訓シ來レリ尚右公文案、伊國政府ヨリノ來翰中伊独、伊墺トノ条約ニ基ク待遇ニ言及セル理由ハ伊國ニ於テハ是等關係條約カ開戦ニ依リ消滅セルニ拘ラス是等条約ニ基ク關稅協定利益ハ開戦後引続キ日本其他ノ諸外國ニ適用シ來リタル關係アルヲ以テ右独墺トノ条約ニ依ル利益ニ付テモ伊國カ第三國ニ対シ之ヲ与フル以上日本モ亦之ニ均霑スルノ權利アルヲ特ニ規定シ疑問ノ余地ナカラシメタルモノナリ

曩ニ伊国政府ニ於テ日本ニ對スルト等シク通商條約ノ廢棄ヲ通告セシ國ハ仏蘭西、瑞西、塞爾比亞、羅馬尼亞、露西

内閣總理大臣伯爵 寺 内 正 豪 (印)  
外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿  
通牒

大正六年十二月二十二日通機密送第一七八号  
日伊通商暫定取極ニ関スル公文交換ノ件  
請議ノ通上裁ヲ經タリ

一一一七 十二月二十八日 本野外務大臣ヨリ  
在伊国伊集院大使宛(電報)

日伊通商暫定取極公文交換方ニ関スル件

第七〇号 至急

往電第六七号日伊公文交換済ノ電報遲クモ十二月三十日迄ニ当方ニ着スル様御取計アリタシ

一一一八 十二月二十八日 在伊国伊集院大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

日伊通商暫定取極公文交換済ノ旨報告ノ件

第一九六号

貴電第六七号ニ関シ本月二十八日(二十八)文書交換ヲ了セリ右兩文ノ日附冒頭及末尾ノ文句等ハ次ノ差異ヲ除ク外総テ一千九百十一年七月十二日ノ暫定條約文ト同一ナリ

亞、伯刺西爾、希臘、西班牙ノ八ヶ國ナルカ内瑞西、塞爾比亞、羅馬尼亞、伯刺西爾、西班牙トハ日伊間同様現行條約ヲ其假延期スヘキ趣旨ノ暫定取極既ニ締結済ミニテ仏蘭西トモ右趣旨ノ暫定取極締結ノ交渉大体結了セル由ナリ

註 本説明ハ十二月二十六日枢密院會議ニ於テ外務省側ヨリ西トモ右趣旨ノ暫定取極締結ノ交渉大体結了セル由ナリ  
サレタルモノナリ尚右公文案ハ前掲ニ付省略ス(前掲ノ二三〇文書附屬書一及二)

一一一五 十二月二十六日 本野外務大臣ヨリ  
在伊国伊集院大使宛(電報)

日伊通商暫定取極公文交換方訓令ノ件

第六七号

貴電第一八八号、第一八九号公文其假交換方取計ハレタシ尚當方公表上必要アルニ付右両公文ノ日付及ヒ冒題字句并ニ末尾ニ記入セラルヘキ署名者ノ官氏名等總テ公文ニ記載セラレタル通り洩レナク原文ノ假御回電アリタシ

一一一六 十二月二十八日 寺内外閣總理大臣ヨリ  
本野外務大臣宛

日伊通商暫定取極上奏裁可ノ件

一一一九 十二月三十日 外務省告示

内閣外甲第一五九号  
大正六年十二月二十八日

先方署名者ハ S. Sonnino 当方 H. Ijuin 往信宛名ハ Marquis Di San Giuliano ノ代リニ Baron S. Sonnino 来信宛名ハ Le Baron Hayashi ノ代コニ H. Ijuin 又來信ノ末尾 veuillez agréer ノ代リニ agreeez ノアリ日附ハ勿論十一月二十八日附ナリ但先方米翰ニハ日附ノ上ニ Rome ナル文字ナシ

外務省告示第四十二号

大正元年十一月二十五日調印ノ日伊通商航海條約ハ客年十二月中伊國政府ヨリ其ノ廢棄ヲ通告シ來リタルニ依リ本年十二月三十一日限リ消滅スヘキモノナル処(大正五年十二月外務省告示第二十八号參照)今般日伊兩國政府間ニ右通商航海條約ノ各項及附屬稅表ヲシテ明年滿一年間効力ヲ存続セシムル趣旨ノ暫定取極成立シタリ

大正六年十二月三十日 外務大臣法学博士子爵 本野一郎

註 右ハ十二月三十日附官報号外告示欄ニ掲載セラレ又交換セラレタル伊國政府米翰及在伊國大使復翰各本文ハ官序事項欄ニ掲載セラレタリ